

18-195

№ 23246 / 22

緒言

近年外交ヲ談スル者動モスレハ埃及ヲ引證ス而シテ埃及ノ

事迹ヲ記セシモノ世間甚タ乏シ惡ソ其誤解スル者ナキヲ知

ラシヤ予コ、ニ感アリ此書ヲ著セリ庸陋ノ筆若^テ世ニ小補

アラハ幸之ニ過クルモノナシ

此書博引ヲ求メス唯先輩ノ著書最モ明確ナルモノヲ基礎ト

シテ大體ヲ記セント欲シアツセル氏ノ「埃及論」ドクトルヂユ

「^ロ」氏「埃及法權論」エフ、マルタン氏ノ「埃及論及ヒ萬國公

法」ローラン、シヤクメン氏ノ「萬國公法及ヒ東方論」並ニ公法學

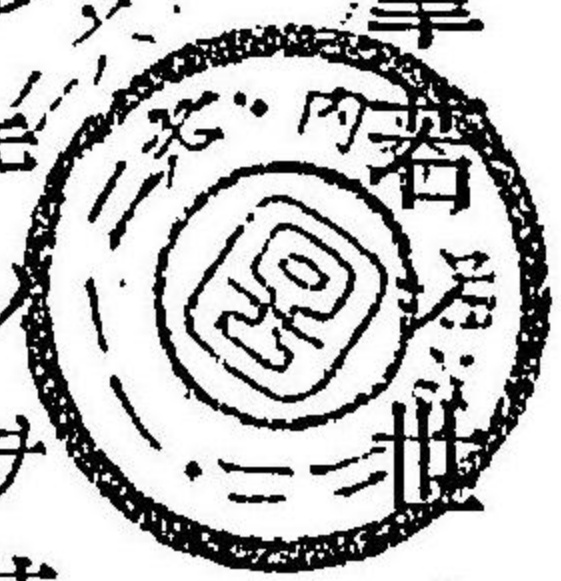
士會院ノ紀事等ヲ參觀シタリ

明治二十二年八月

原

敬

誌



埃及混合裁判

原 敬 著

No 23246

11



土耳其格ヲ始メテオリアンシテ東方諸國ニ歐洲諸政府ノ有スル特權ヲ惣稱シテ「カピチ」ユラシヨシト云フ「カピチ」ユラシヨシ「ハ」往古土國政府ガ其領内ニ住スル耶蘇教人民ヲ保護セシムル爲メニ佛國ニ許與セシ特許ニ始レリ當時土國ノ威力最モ盛ンニシテ歐洲諸國ヲ遇スルニ夷狄ヲ以テシ嘗テ對等ノ條約ヲ許サズ故ニ「カピチ」ユラシヨシ「ハ」條約ニ起ラスシテ恩惠ニ出タルモノナリ然ルニ爾後土國ノ威力漸ク衰へ各國政府ハ佛國ノ例ニ倣フテ特許ヲ得又條約ヲ結ヒテ既得ノ權理ヲ鞏固ニシ遂ニ

所謂治外法權ノ動カスヘカラサルモノヲ生シタリ
 往古治外法權ノ存セシハ土耳其格ノミニアラス白耳義ノブル
 シユ府ニ於テ日耳曼西班牙若クハフロランス人等ハ各其本
 國ノ法權ノ下ニ在リテ地方ノ裁判ニ服セサリシヲ始メトシ
 テロンドン、マルセーユ、モンペリエ等ノ大市府ニモ亦治外法
 權ノ存シタルヲアリ然レモ此クノ如キ法權ハ其國ニ居ル者
 ハ其法ニ從フヘシトノ原則ニ伴フテ其國法ノ實際亦益々公
 正トナリ且ツ法律ノ精神各國殆ント一ニ歸シタレハ歐洲諸
 國ニ於テハ全ク消滅シタリ土耳其格及ヒ東方諸國ニ在リテハ
 法律ノ精神歐洲ニ異リ執法ノ實際モ亦公正ナラス加フルニ
 風俗頽廢シテ國力甚タ振ハス故ニ縱令主權獨立對等ノ如キ
 國家固有ノ權理ヲ主張シテ治外法權ヲ撤去セント欲スルモ

此等ノ權理ハモト空論ヲ以テ有スヘキモノニアラサレハ今
 日ニ至ルマテ依然法權ヲ回復スルヲ能ハサルナリ
 埃及ハ土耳其格ノ宗主權ニ屬スル半獨立國ナリ土耳其格ト共ニ
 「カピチユラシヨ」ノ存スル國ナリ故ニ外國人ニ對シテ法權
 ナ有セス然レモ宗主權者ヲ除クノ外ハ外國ノ干涉ヲ受クヘ
 キ理ナシ唯タ理ハ實ニ勝タス遂ニ治外法權ヲ撤去スルヲ能
 ハサルノミナラス却テ外國ノ干涉ヲ受クルニ至レリ其原因
 ナ知ルハエフ、マルタン氏ノ「埃及論及ヒ萬國公法」ト題スルモ
 ノ最モ精確ナルニヨリ要點ヲ左ニ抄譯スヘシ

マルタン氏云ク埃及ハハアラオン聖書ニ稱スル埃及諸王ノ時代ヨ
 リ千八百四十年倫敦條約ノ締結ニ至ルマテ各國侵畧ノ
 集點ニシテ而シテ各國ノ間ニ移易轉遷シタリ往古ニ在

リテハ物理ヲ研究スル野心ナキ外國人ノ往遊スル國ニ過キサリシモ同時ニ其國土ノ非常ナル豊肥ト無二ノ地形トハ漸ク世ニ知ラレ遂ニ恐ルヘキ戰勝者ノ侵畧ヲ招クニ至レリ且ツナポレオン一世ノ埃及遠征ハ後ノ戰勝者ヲシテ永ク土國ノ權威ヲ維持センヨリハ寧ロ自ラ埃及ノ國主トナルヲ易キヲ證シタリ故ニ現埃及ノ建國者ナルメヘメー、アリエナシテ其政畧ヲ定メ及ヒ成功ヲ望マシメタルハ此遠征ニ原因スルヲ爭フヘカラサル事實ナリ

メヘメー、アリエハ千八百五年ニ埃及總督ノ「パシヤ」ヲ追放シテ自ラ埃及副王トナリ歐洲ノ制度ヲ採リテ其國政ヲ改革シ且ツ土帝「ムー」二世ニ反シテ兵ヲ起シ「リイ」ヲ略奪シ殆ント土國ヲ覆サントシタリ此等ノ舉ハナポレオン一世ノ遠征ヲ見テ土國ノ與シ易キヲ知リタルニ由ルカ如シ

メヘメー、アリエガ其正當ノ主權者シユルタン土帝ニ反シテ第二ノ役ヲ起シ千八百三オットマン帝國土ノ敗亡ハ殆ント疑ナカリキ於是歐洲諸大國英、澳、佛、普ハ再ヒ干涉シ戰勝者メヘメー、アリエナシテ歐洲ノ利益ヲ本トシタル條款ニ服從セシメント決意シタリ遂ニ千八百四十年七月十五日倫敦ニ於テ英、澳、普、露ト土國トノ間ニ條約ヲ締結シ其條約ニヨリテ埃及ノ萬國的地位ヲ確定シ及ヒケール府メヘメー、アリエノ慾望ヲ制壓シタリ佛國ハ他ノ四ヶ國英、澳、普、露ノ提出セシ條款ニ異議アリテ七月十五日ノ條約ニハ調印セス其後ニ至リテ加名シタリ

萬國のトハ原語ニ「アン」ナルナシヨナールト云フ語ヲ易ヘテ之ヲ云ヘハ萬國ノ協定ニアラサレハ左右ヲ得サルモノヲ云フナリ適當ノ譯字ヲ見ス

千八百四十年七月十五日ノ條約及ヒ其附屬書ハ埃及ニ

與フルニ自由大憲章マニア、シヤルタ、リベラトムヲ以テシタリト謂フヘシ此條約ニヨリテメヘメ、アライナシテ倫敦會議ノ決定シタル條件ヲ諾シ且ツシリイニ對スル口實ヲ棄擲セシメタリト雖モ然レモオットマン帝國內ニ在リテ特權アル地位ヲ埃及ニ授ケ且ツ今日ニ至ルマテ埃及ノ位置ニ就キ法律上ノ基礎ヲ立テタリ而シテ其條項ハ万國ノ協定ヲ以テ取極メタレハ歐洲諸大國ノ間ニ更ニ協定アルニアラスンハ歐洲諸大國ノ與ヘタル埃及ノ權理及ヒ特權ヲ動カスコトヲ得サルハ勿論ナリ尤モ其後土帝ノ特別勅令ヲ以テ土國ニ對スル埃及副王ノ權理ヲ擴張シタルモノアリ其勅令ハ千八百四十年ノ會議ニヨリテ與ヘタル半獨立及ヒ萬國的地位ニ關スル重要ナル點ニ於テハ何事ヲ

モ解放セス又修正スルコトヲモ得サリシトハコ、ニ云ハサルヘシ

故ニオットマン帝國內ニ於テ埃及ノ地位ハ如何ナルモノナルカ及ヒ如何ナル方法ニヨリテ埃及ノ地位ハ變更セラル、コトヲ得ヘキカヲ知ランガ爲メニ以上述フル所ノ主旨ニヨリテ千八百四十年ノ條約ヲ審査スルコト必要ナルヘシ

千八百四十年七月ノ條約ハ其主トスル所ハ歐洲平和ノ鞏固ヲ計ルカ爲メニ「オットマン帝國ノ完全」ヲ傷クルモノヲ除キ且ツ「シユルタンアンヂンダニス帝位ノ獨立」ヲ保證スルコトヲ言明スルニ在リ今日ニ至ルマテ埃及ノ半獨立ヲ保證スルモノハ此二理由即チ一ハ土帝國ノ完全他ノ一ハ歐洲

ノ。平。和。及。ヒ。利。益。ナリ故ニ埃及事件ヲ論定セント欲セハ
此二原則ヲ忘ルヘカラス

又云クメヘメー、アライハ完全ノ獨立ヲ求ムル意ハ毫モ
ナカリシトノ争フヘカラサル事實ヲ忘ル、モノ往々之
アリ埃及國民ハ一般ニ回々教徒ノ首長マホメノ後嗣ナ
ルシユルタンノ權威ヲ敗滅スル意向ナシメヘメー、アリ
イハシユルタンノ兵ヲ破レリ其目的他ナシ後來其政府
ヲ安全ノ地ニ置キ且ツ埃及ヲシテ土國パシヤ等ノ收斂
ヲ免カレシメント欲シタルニ過キスメヘメー、アライハ
固ヨリ埃及ヲシテ純乎タル獨立國タラシムルヲ能ハス
又埃及一國ノ力ニヨリテ其國ヲ維持セント欲セハ到底
歐洲大國ノ餌食タルヘキヲ知レリ又事コ、ニ至レハ

回々教首ノ權威ヲ去リテ耶蘇教權威ノ下ニ立ツヲ望
マサル眞正ナル回々教徒ノ頌賛ヲ受クルヲ能ハサルニ
ヨリ現埃及ノ建國者メヘメー、アライハ深ク回々國民ノ意向ヲ
酌ミ且ツ埃及ニ於テ歐人ノ跋躪ハ疑ナク埃及人民ニ禍
害ヲ被ラシムルモノニシテ而シテ若シ歐人ノ埃及ヲ支
配スルヲアランニハ埃及人民ノ社會經濟及ヒ政事ハ全
ク滅亡ニ歸スヘキヲ知レリ是ニヨリテ之ヲ見レハメ
ヘメー、アライハ何故ニシユルタンノ政教權威ニ屬スル
諸州ト分離シテ埃及ヲシテ眞ノ獨立タラシメントノ意
ナカリシヤヲ解スルヲ得ヘシ
此クノ如キ理由ナルニヨリ倫敦條約ハ埃及ヲシユルタ
ンノ權威ノ下ニ置キテ以テメヘメー、アライノ希望ニ滿

足ヲ與ヘタルナリメヘメ、アライハ土國ヨ而シテ千八百
 四十一年以後同主義ヲ確認シタル土帝ノ勅令ハ皆ナ埃
 及ニ關スル萬國ノ利益ヲ本トシタルモノニアラサルハ
 ナシ
 又云ク埃及ト土耳其トノ關係ハ歐洲諸大國ノ正當ナル
 承諾ヲ得ルニアラサレハ之ヲ變更スルヲ能ハサルヲハ
 爭フヘカラサル事實ナリシユルタシハ倫敦條約ニ調印
 シタル諸大國就中埃及ノ萬國的ノ位置ニ深キ關係アル
 諸大國ノ承諾ヲ得スンハ埃及ノ内政ニ關シケデーウ副王
 ノ政事ノ獨立ヲ禁止スル權理ナク又純乎タル政事及埃
 ノ獨立ヲ埃及ニ附與スル權理ナシ
 千八百四十一年土帝ノ勅令ハ後ノ勅許ノ基礎トナリシ

モノナリ其勅令ハ外交書札ヲ以テ四大國ノ代表者ヨリ
 正式ノ承認ヲ經タリ爾後ケデーウニ許與セシ勅令モ總
 テ公然諸大國ニ通知セリ故ニ千八百六十九年ニ英國政
 府ハ堅ク此點ヲ執リ且ツ之ヲ確認シ同年九月六日ロル
 ド、クラランドンヨリコロチル、スタントンニ送リタル有
 名ナル書翰ヲ以テ埃及副王ニ左ノ事ヲ言明セシメタリ
 云ク歐洲諸大國ハ土帝ノ勅令ヲ以テ埃及副王ニ與ヘタ
 ル權理ヲ諸大國ノ承認ヲ得スシテ無効ニ歸セシメ又ハ
 其一部ヲ殺クヲ土國政府ニ許可セス同様ノ權理ニヨ
 リテ歐洲諸大國ハシユルタシヨリ全ク分離シテ獨立セ
 ントノ埃及副王ノ慾望ニ反對スヘシト而シテロルド、ク
 ラランドンハケデーウノ獨立ノ慾望ヲ不是ト認メタリ

以上記スルカ如クナルニヨリ千八百四十年ニ土國ハ歐洲諸大國ノ援助ニヨリテ埃及ノ叛亂ヲ平定シ亡國ノ危難ヲ免ル、^ト得タリト雖^モ同時ニ埃及ノ位置ハ萬國^的ノモノトナリテ歐洲諸大國ノ協賛ヲ得ルニアラサレハ土國政府ト雖^モ埃及内外ノ政事ニ變更ヲ能フル^ト得ス而シテ埃及モ亦自ラ國政ヲ改革スルノ權理ナク總テ諸大國ノ協賛ヲ得サルヘカラサルニヨリ歐洲諸國ノ埃及ニ對スル干涉ハ年ヲ追フテ増加シタリ

埃及政府ハ其弊ニ耐ヘス「カピチユラシヨン」ヲ解放シテ外國人ヲ埃及法權ノ下ニ置クカ若シ全ク解放スル^ト得サレハ責メテ現行裁判ヲ改革シテ法權ノ幾分ヲ回復セント欲シ屢々歐洲諸國ニ請求セシモ歐洲諸國ハ俄カニ之ヲ許サス遂ニ

久シク其望ヲ達スル^ト得サリシガ千八百六十七年ニ至リ佛國政府ハ埃及ノ請求ヲ容レ時ノ司法大臣^{デユウルジュ}氏ヲ長トシテ委員ヲ組織セリ委員ノ目的ハ事實ヲ審議シテ一ノ決案ヲ提出スルニ在リタリ佛國ノ此舉ニ出タルハ埃及佛ノ通商益々繁ヲ加ヘ移住スル者年ヲ追フテ増加シ遂ニ埃及事件ヲ不問ニ置ク^ト得サルニ因ルモノニシテ當時ノ調査ニヨレハ埃及ニ在留スル外國人ハ大凡二十万ニシテ内佛國人ハ二万ノ多キヲ占メタリト云ヘリ以テ其已ム^ト得サルニ出タルヲ知ルヘシ

委員會ハ事實ヲ調査シ且ツ實況ヲ熟知スル人々ノ説ヲ聞キ審議ノ末同年十二月三日報告書ヲ出シテ埃及國ニ行ハル、現行裁判ヲ改革スル^トノ必要ヲ認メ且ツ混合裁判ヲ設ケテ

從來ノ裁判ニ換フヘキ旨ヲ勸告シタリ
 佛國政府ノ此發意ノ力ニヨリテ埃及政府ハ万国委員會ヲ開
 ラク₇ニ決定シ各國政府ニ請求セシニヨリ奧國北日耳曼聯
 邦北米合衆國佛國英國伊國露國ノ諸政府ハ埃及國ノ請求ヲ
 容レ改革案ヲ審議セシメンカ爲メニ委員ヲ派遣シ千八百六
 十九年十月二十八日埃及國ケデーウ殿下ノ外務大臣ニニバル、
 パシヤ議長トナリテ万国委員會ヲケール府ニ開ラキタリ
 第一回ノ會議ニ於テ全委員共同ノ報告ヲナスヘキヤ又ハ各
 委員別箇ニ本國政府ニ報告スヘキヤトノ疑問起リテ北日耳
 曼及ヒ佛國ノ委員ハ各委員別箇ノ報告ヲ可トシ議長ニニバル、
 パシヤハ之ニ反對シテ共同報告ヲ主張シ討議ノ末委員會ハ
 埃及政府ノ議ヲ採用シテ確定處分ノ基礎ヲ立ツルカ爲メニ

共同報告ヲ草シ以テ委員多數ノ意見ヲ知ラシムヘント議決
 セリ

第四回ノ會議ニ至リテ埃及政府ヨリ提出セシ裁判所構成法
 草案ヲ議スルニ當リテ委員會ハ下調委員ヲ設ケテ充分ニ調
 査セシムヘント議決シ各國委員ノ内ヨリフランシス氏英ド
 ウエスク、ド、ピユトリンジヤン氏 奧シアツヌス氏 伊ピイトリ
 氏佛ヲ下調委員ニ撰任シニニバル、パシヤ議長トナリテ審査ニ
 着手シ更ニ議案ヲ調成セリ
 本會議ヲ開ラク₇八回ニシテ會議遂ニ一決シニニバル、パシヤ
 ヲ長トシテ三名ノ委員ヲ撰ヒ報告案ヲ起草セシメ千八百七
 十年一月十七日各委員之ニ調印シテ各國政府ニ送致シタリ

千八百六十九年ケール府ニ開ラキタル万国委員會ハ埃及政
 府ノ取調書請求書保證書及ヒ委員ノ發議セシ追加保證ヲ詳
 論セシニ因リ埃及當時ノ弊害不便及ヒ外國政府ノ關係ヲ知
 ルハ其會議錄ニ優ルモノナシ因テアツセル氏ノ記事ニヨリ
 テ大要ヲ左ニ摘録スヘシ

第一民事及ヒ商事裁判

埃及國ニハ地方裁判所ノ外ニ十七ヶ國ノ領事館アリテ各
 其國民ヲ裁判スルノ權ヲ有セリ故ニ埃及國人ハ地方裁判
 所ノ裁判ヲ受ケ外國人ハ各其本國領事ノ裁判ヲ受ク而シ
 テ各裁判所ハ各異ノ法律ヲ適用シ各異ノ訴訟法ニヨリテ
 裁判スルニ因リ左ノ如キ不便アリ
埃及國ニハ定リタル
 外國人居留地ナシ

(一) 埃及國ニ於テ國籍ヲ異ニスル者ノ間ニ契約ヲ結ハ
 ント欲スルモ其契約ヲ結フ當時ニアリテハ何ツレノ
 裁判所ニ出訴スヘキモノトナルカ何ツレノ法律及ヒ
 訴訟法ニ從テ裁判セラレハモノトナルカヲ豫知スル
 ヲトヲ得ス

(二) 異リタル國籍ノ者數人ヲ相手取りテ出訴スル場合
 ニ原告人ハ各被告人ニ對シテ各其裁判所ニ出訴セサ
 ルヲ得サルニヨリ被告人ノアラン限リハ數多ノ訴訟
 ヲ起サ、ルヲ得ス
 右ノ外尙ホ重大ナル不便アリ領事裁判ニ對スル上告控訴
 ハ埃及國內ニ於テ之ヲナスノ道ナク遠ク其本國ニ赴カサ
 ルヲ得ス

又各國領事ハ各其國ノ法律ヲ適用スルカ爲メニ埃及政府ハ專賣特許、工業所有權、商標等ニ關スル法律ヲ遵守セシムルノ道ナシ

同様ノ理由ニヨリテ埃及政府ハ不動産質入書入ノ法ヲ施行スルヲ得ス而シテ此等ノ法ヲ施行スルヲ得サルニ因リ從テ農工ノ發達ヲ妨害スルモノ實ニ夥多ニシテ埃及ノ福利ヲ進ムルヲ得ス

加フルニ外國人ハ埃及政府又ハ行政官若クハ紳商紳士ノ類ヲ相手取りテ地方裁判ニ出訴セサルヲ得サル場合ニハ地方裁判所ヲ信用セス外交上ノ談判ヲ以テ直チニ政府ニ照會スル習慣アリテ之カ爲メニ屢々埃及政府ニ困難ヲ醸セリ

又顧テ地方裁判所ノ情況ヲ見ルニ是レ亦不完全ニシテ行政官ノ意思ニ左右セラレ且ツ裁判ノ執行ニ關シテモ行政官ノ爲メニ妨害セラル、場合多シ

此クノ如キ實況ナルニヨリ現行裁判ノ改革ハ埃及政府及ヒ人民ニ有益ナルハ固ヨリ論ナク埃及國ニ住居シ又ハ通商スル外國人ノ爲メニモ必要ナルヲ多言ヲ費サスシテ明カナリ

於是埃及政府ノ提出シタル改革案ノ要旨ハ埃及人ト外國人トノ間ニ起リタル訴訟及ヒ國籍ヲ異ニスル外國人等ノ間ニ起リタル訴訟ヲ裁判スル爲メニ畫一ノ法律ヲ適用スル畫一ノ裁判法ヲ定メ而シテ其裁判執行ニハ毫モ行政官ノ干涉ヲ許サスト云フニ在リタリ

畫一ノ法律ヲ適用スル爲メニ畫一ノ裁判法ヲ定ムルトハ種々ノ弊害ヲ除去スルニ最良ノ方法ナリト全會一致ヲ以テ承認セシガ新裁判所ノ權限ニ至リテ異議ヲ生セリ佛國委員及ヒ埃國委員ハ國籍ヲ異ニスル外國人等ノ間ニ起リタル訴訟ヲ裁判セシムルトテ不可トナシ此等ノ權ハ漸次ニ許與セント發議セリ其主旨ニヨレバ新裁判所ニ與フルニ始メハ埃及人ト外國人トノ間ニ起リタル民事及ヒ商事ノ訴訟ヲ裁判スルノ權ヲ以テシ其經驗ニシテ良結果ヲ得ハ其時ニ至リテ國籍ヲ異ニスル外國人等ノ間ニ起リタル訴訟ヲ裁判スルノ權ヲ以テスヘキノミナラス此場合ニ於テハ同國籍ノ外國人等ノ間ニ起リタル訴訟ヲ裁判スルノ權ヲ以テスルモ不可ナシト云フニ在リ

埃及政府ハ埃佛兩國政府ノ說ニ反對シ不動産ニ關スル事件ヲ裁判スルハ地方裁判所ノミ其權理ヲ有スヘキヲ今新裁判所ニ移シテ其權理ヲ有セシムルハ必竟畫一主義ノ完全ヲ求ムルニ外ナラス故ニ若シ新裁判所ニ於テ國籍ヲ異ニスル外國人等ノ間ニ起リタル訴訟ヲ裁判スルト能ハスンハ不動産ニ關スル事件ヲ新裁判所ノ管轄ニ歸セシムルトテ得スト主張シタリ
新裁判所ノ裁判執行ニ關シテハ全會一致ヲ以テ領事ニテモ地方官ニテモ一切行政官ノ干涉ナシニ新裁判所獨リ擔任スヘシト議決セリ
右ノ如ク裁判法ヲ改革シ從來外交官及ヒ領事官ニ一任セシ法權ノ幾部ヲ回復セントスルニ當リ埃及政府ノ提出セ

シ保證ノ條款及ヒ之ニ對スル議事ノ大略ハ左ノ如シ

一 始審裁判所及ヒ控訴院ヲ設置スヘシ此等ノ法廷ニ於テ外國人關係ノ訴訟アルトキハ其判事ノ多數ハ外國法官タルヘシ

外國法官ハ歐洲ニ於テ現ニ法官ノ職ヲ奉スル者或ハ嘗テ法官タリシ者ヨリ撰拔シテ埃及政府之ヲ任命スヘシ其割合ハ

始審裁判所ノ裁判ニハ法官三名ヲ要シ内二名ハ外國法官一名ハ埃及法官タルヘシ

控訴院ノ裁判ニハ法官五名ヲ要シ内三名ハ外國法官二名ハ埃及法官タルヘシ

此案ニ對シテ委員會ハ修正ヲ求メタリ第一法官ノ撰拔ニ

關シ現ニ法官ノ職ヲ奉スル者或ハ嘗テ法官タリシ者トアルヲ改メ本國ニ於テ法官タルヲ得ヘキモノトナシテ撰拔ノ區域ヲ廣ムヘシ何トナレハ外國ニ行キテ法官ノ職ヲ奉セントスル者ヲ現ニ法官ノ職ヲ奉スル者或ハ嘗テ法官タリシ者ヨリ撰拔スルトハ到底爲シ得サル國アリ英國ノ如キ即チ是ナリト

埃及政府ハ此修正案ヲ採用シ且ツ外國政府ノ指導ニヨリテ法官ヲ撰任スルトテ承諾セリ然レモ外國政府ノ公然ノ干涉即チ外國政府ヨリ名簿ヲ以テ推舉スル如キハ埃及國ノ國威ヲ傷ツクルトナルカ故ニ單ニ自國ノ利益並ニ撰任ノ當ヲ得ンカ爲メニ外國ノ司法大臣ニ私ニ請求シ其國政府ノ承諾及ヒ許可ヲ得タリト認ムル者ノ内ヨリ埃及政

府自ラ撰任スルトナセリ
 法官ノ數ニ至リテハ委員會ハ始審裁判所ノ裁判ニ三名ヲ
 要スト定ムルトナセリ其理由ハ若シ外國法官二
 名ノ間ニ意見ヲ異ニシタル場合ニハ獨リ埃及法官ノ意見
 ニヨリテ其訴訟ヲ裁決スルカ如キ不都合ヲ生スト云フニ
 在リ

埃及政府ハ此異議ヲ容レ法官ノ數ヲ改メ始審裁判所ノ裁
 判ニハ法官五名ヲ要シ内三名ハ外國人二名ハ埃及人トナ
 シ控訴院ノ裁判ニハ法官七名ヲ要シ内四名ハ外國人三名
 ハ埃及人ト修正シタリ

二 始審裁判所ニ於テ商事裁判ノ場合ニハ公撰セラレ
 タル商人二名内一名ハ埃及人一名ハ外國人ヲ助役ト

ナスヘシ

委員會ハ多數ニヨリテ此保證ヲ承諾シ且ツ控訴院ニハ助
 役ヲ置クノ必要ナシト議決セリ

三 法官ノ昇進或ハ轉任ハ法官團體ノ發議ニ因リテ決
 定スヘシ

四 法官ノ職ハ不易ノモノタルヘシ

右兩條ノ保證ニ對シテ委員會ハ多數ニヨリテ議決シ且ツ
 緊要ノ條項ト認メタリ

五 裁判ハ公開シ且ツ辯護ノ自由ヲ許スヘシ
 委員會ハ此保證ヲ承諾シ更ニ左ノ追加保證ヲ求メタリ
 即チ

原告及ヒ被告人ハ歐洲ニ於テ代言人タルトナ得ヘキ正當

ノ資格アル者ヲ代人トシテ控訴院並ニ覆審院ニ出廷セシムル

裁判所ニ公然^{オライシヤル}ノ國語トシテ埃及語ノ外ニ埃及國ニ最モ傳播シタル國語ヲ採用スル

而シテ埃及國ニ最モ傳播シタル國語ハ伊太利語及ヒ佛蘭西語ナリトシテ委員會ハ此二國語ノ採用ヲ勸告セリ

六 新裁判所ノ管轄ハ左ノ如シ

(イ) 外國人ト埃及人トノ間ニ起リタル動産及ヒ不動

産ニ關スル訴訟但「ワクフ」ノ行政ニ屬スル「ワクフ」財

産ニ關スルモノヲ除ク「ワクフ」トハ宗教^{ノ財産ナラン}

委員會ハ宗教ノ爲メニ生シタル此但書ヲ悉ク承諾スルヲ得スト主張シ外國人ノ被告タル場合ニハ「ワクフ」ノ不動

産ニ關スルモノニテモ新裁判所ノ管轄ニ屬スヘシトノ修正ヲ求メタリ

(ロ) 政府、行政官及ヒ埃及副王又ハ其一族ノ「ダイラ」ニ對スル訴訟

埃及政府ニ於テ此讓與ヲナシタルハ前文ニ述フルカ如ク政府又ハ行政官等ニ對シテ外國人ノ起訴スヘキ場合ニハ動モスレハ訴訟ヲ止メ外交上ノ談判ヲ以テ政府ニ照會シ之カ爲メ埃及政府ハ往々利益若クハ權威ヲ害セラル、弊習アルニ因リ此弊習ヲ除去セント欲スルニ出タルモノ、
如シ

(ハ) 一箇人ノ所有權ヲ損害シタル訴訟及ヒ既得ノ權利若クハ政府又ハ行政官ノ承認セシ契約ニ悖リテ

行政上ノ處分ヨリ生シタル正當賠償ニ關スル訴訟
 本條ノ討議ニ於テ埃及政府ハ新裁判所ハ國有財産ニ對シ
 テ裁判ヲ與フルヲ得ス又行政處分ノ執行ニ關シテ妨止
 スルヲ得スト主張セシニヨリ委員會ハ埃及政府ノ主張
 スル所ハ正當ナリト認メタレモ尙ホ其條款ヲ明瞭ナラシ
 ムルノ必要アルニヨリ民法ニ於テ本件ニ關シテ特別ノ規
 則ヲ定ムヘシト議決セリ

(三) 執務中權威ヲ濫用セシ官吏ヲ前以テ行政官ノ許
 可ヲ得ルヲナシニ追捕スルヲ

此保證ニ對シテ委員會ハ官吏ヲ追捕スルノ權ヲ新裁判所
 ニ附與スルトモ之カ爲メニ埃及政府ハ全ク責任ヲ免カル
 、權ナキコトヲコ、ニ論定シ置クヲ必要ナリ且ツ此場合

ニ責任ノ有無ニ裁決ヲ與フルモノハ新裁判所タルヘシト
 議決シタリ

終リニ臨ミ委員會ハ二ヶ條ノ追加保證ヲ請求セリ
 即チ

- 一 各國ノ協賛ヲ經テ訴訟法及ヒ新裁判所ノ管轄ニ屬
 スル事件ニ關シ畫一ノ法律ヲ制定スヘシ
- 二 此新案ヲ實行スルヲ五ヶ年後ニ至ラハ各國政府
 埃及政府ト協議ノ上ニテ尙ホ實行スルカ或ハ今日
 ノ情況ニ復スルカヲ決スヘシ

此追加保證ノ第二ハ埃及政府ニ於テ直チニ承諾セリ

第二刑事裁判

當時埃及國ニ行ハレタル刑事裁判ノ組織ハ不便至極ノモ

ノニシテ埃及政府ハ公安ヲ保持スヘキ責任ヲ有スト雖其職權ヲ全フスヘキ方法ナシ外國人罪ヲ犯スモ現行犯ニアラサレハ埃及政府ハ直チニ追捕スルノ權ナク此場合ニハ警察官ハ先ツ以テ犯罪人國籍ノ領事ニ照會シテ追捕ノ許可ヲ求メサルヲ得ス而シテ領事モ亦刑事裁判ノ全權ヲ豫審ノ後相當裁判ヲ受ケシムル爲メニ本國ニ送還セリ故ニ埃及人ハ犯罪人ヲ本國ニ送還スルハ相當裁判ヲ受ケシムルカ爲メト云フト雖其事實ハ刑罰ヲ免カレシムルカ爲メナリト信シ埃及ニ在留スル歐洲人モ亦犯罪人送還ノ不可ヲ説キタリ此實況アルニヨリ委員會ハ全會一致ヲ以テ刑事裁判ノ改革ヲ必要ト認メタリ

埃及政府ノ提出シタル改革案ハ違註罪ノ處分及ヒ埃及國

ニ於テ犯シタル重輕罪豫審終結ノ後陪審官ノ意見ヲ聞キ始審裁判所又ハ控訴院ニ於テ刑ノ宣告ヲ爲スヘシト云フニ在リ

此發議ニ對シ委員會ハ領事ノ布達ニ悖リタル違註罪ノ處分ハ領事ノ權内ニ屬スヘシトノ一言ヲ添ヘタルコト外埃及政府提出案ノ大體ヲ承諾シ且ツ現行裁判法ノ不便ハ各國各其國ノ刑法ヲ適用スルカ爲メニ刑罰區々トナリテ同一ノ犯罪ニシテ不同ノ處分ヲ受ケ安寧ヲ保持スルコト難キニアレハ此弊害ヲ除去センカ爲メハ畫一ノ裁判法ヲ制定シ何人ニ向テモ畫一ノ法律ヲ適用スルニ在リトノ必要ヲ認メタリ

本議事中伊國委員ノ一人ブレシア控訴院評定官シアッコス

氏更ニ現裁判法ノ不便ヲ述ヘ刑事被告ヲ本國ニ送還スル
 一及ヒ被告人裁判ノ地ニ證人ヲ派遣スル一ハ非常ノ費用
 ナ要シ加フルニ時トシテハ派遣スル一ヲ得ス即チ老人一
 家族ヲ主宰スル婦女商店ノ主人ニシテ其商業ヲ去リ難キ
 モノ、類ハ仮令證人タラサルヲ得サル者ト雖モ之ヲ被告
 人裁判ノ地ニ送ル一ヲ得サルナリ英國政府ハ此等ノ不便
 ナ除クノ必要ヲ感シアレキサンドリイニ領事法廷ヲ特設
 シ刑事裁判ノ全權ヲ附與シ且ツ在留英國人ノ内ヨリ陪審
 官ヲ出席セシメ其協賛ニヨリテ最重ノ刑ヲモ宣告シ得ル
 一トトナセリ而シテ此法廷ノ實況ハ頗ル整頓シ良結果ヲ奏
 スルモノ、如シ然ラハ則チ此實驗ハ在留紳士ノ内ヨリ善
 良ナル陪審官ヲ得ル一難カラストノ理由ヲ證明スルモノ

ニアラスヤト云ヘリ

此等ノ外、重輕罪治罪ノ方法ニ關シテ埃及政府ハ數多ノ保
 證ヲ提出セシガ委員會ハ討議ノ末眞ノ保證ハ僅カニ一二
 大体ノ主義ヲ言明シタルノミニテ足レリトナスヘカラス
 法律ノ全体及ヒ細條ニ於テ之ヲ求ムヘシ故ニ重輕罪ニ關
 スル畫一法案ハ完全ナル法律ヨリ生スル保證ニ隨屬スヘ
 キモノナリト議決セリ

又墺國委員ノ一人ド、シユレチー氏ハ新裁判所ニ直チニ刑
 事裁判ヲ委任スル一ヲ不可トナシ此權ヲ附與スルハ民事
 及ヒ商事裁判ノ經驗ノ後ニ於テスヘシト發議セリ佛國委
 員ノ一人トリクラー氏ハ之ヲ賛成シ直チニ刑事裁判ヲ委任
 スル一ノ不可ヲ說ケリ

於是委員會議長即ナ埃及國外務大臣ニユバル、パシヤハ左ノ答辯ヲナセリ

予ハ墺國委員ガ予ヲシテ此答辯ノ地位ニ立タシメタル
 一ヲ謝ス何トナレハ予ハ之ヲ機會トシテ言明スル所アラント欲スレハナリ、
 或云ク裁判改革ハ遂ニ廢券同様ノモノタルヘシト、
 又云ク實行ヲ見サル徒法ハ從來屢々之アリト、
 又云ク今回ノ改革モ亦此類ナルヘシト、
 此クノ如キ非難ハ予屢々之ヲ聞ケリ
 是レ果シテ何ノ謂ゾ若シ改革ニシテ遂ニ廢券同様ニ歸スルコトアラハ蓋シ其改革ハ必要ニ起ラザリシナラン、
 若シ然ラストナラハ改革實施ヲ無能力ノ人ニ委任セシカ或ハ密カニ改革ニ反對ノ意見アル人ニ委任セ

シナルヘシ、
 而シテ今回埃及政府ノ提出シタル改革ハ果シテ此クノ如キ事情アルカ願ルニ今回ノ改革ハ公衆ノ希望スル所ニシテ改革案ヲ提出スル以前既ニ已ニ其必要ヲ感シタリ、
 加フルニ委員會ノ輿論及其議定ハ改革ハ公衆ノ希望スル所ナル一ヲ證明セリ而シテ改革ノ實施ハ無能ノ人若クハ密カニ反對ノ意見アル人ニ委任セララル、
 カ、
 是レ決シテ然ラス、
 此實施ハ諸君ニ屬ス、
 諸君ノ法官ニ屬ス、
 地方ノ情實ニ毫モ係累ナク世ノ希望ヲ充タスヘキ才智アリテ而シテ改革ヲ成功セシムヘキ義務ト希望トナ有スル人ニ屬セリ、
 諸君ノ知ル如ク政府ハ其提出案ニ於テモ又其承諾シタル修正案ニ於テモ干涉ノ意ナキノミナラス其嫌疑ヲ受

クルヲスラ務メテ之ヲ避ケタリ然ルヲ何故ニ改革ハ正
實ナラスト云フカ、、又何故ニ其實行ヲ疑フカ、、
、此改革ノ實行ハ政府ニ屬セス、獨立不羈ノ即チ法官人々ニ
屬セリ

委員會ハ多數ヲ以テ民事裁判ノ改革ト同時ニ刑事裁判ノ
改革ヲナスヲ必要ナリト認メタリ但刑事裁判ノ實施ハ民
事及ヒ商事裁判ノ實施後一ケ年ヲ超過セサル時日マテ延
引スルヲ得ヘシト議決セリ

議事ノ情況ハ大略前陳ノ如シ而シテ報告ヲ各國政府ニ送り
タルモ不幸ニシテ同年享佛ノ戦争起リタレハ歐洲諸國ハ埃
及問題ヲ顧ルニ暇ナク遂ニ又數年不問ニ置カル、トトナレ
リ

三

萬國委員會ノ報告ヲ基礎トシテ千八百七十五年埃及政府ト
各國トノ間ニ條約ヲ結ビテ始メテ混合裁判ヲ設置セリ其組
織權限及ヒ各國ノ關係ハ此書ノ附録トシテ譯載シタル佛國
法律ニヨリテ知ルヲ得ヘシト雖モ其大体ヲ論スレハ左ノ如
シ

(一) 混合裁判ハ五ケ年ヲ期限トナシタルニ由リ千八百八十
年ノ終リニ滿期トナリ更ニ繼續スヘキヤ否ヤヲ決スヘキ
時期ニ達セリ於是埃及政府ハ五ケ年間ノ經驗ニヨレハ混
合裁判ハ實功ヲ奏セシモノ尠ナカラス其組織ニ多少ノ修
正ヲ加ヘテ繼續スルヲ必要ナリト各國ニ請求シ各國政府
ハ其請求ヲ容レ修正條款ヲ議セシムル爲メニ委員ヲ派遣

シ同年末ニ萬國委員會ヲ再ヒケール府ニ開ラキタリシガ
 埃及ニ騷擾アリ結局ニ至ラスシテ中止セラレ其間ニ期限
 ナ經過シタリ因テ埃及政府ハ各國ノ協賛ヲ得テ千八百八
 十一年一月九日假リニ一ケ年ノ延期ヲ布告シ翌八十二年
 一月二十八日及ヒ八十三年一月二十八日順次ニ一ケ年ノ
 假延期ヲ布告シ八十四年一月十九日ニ至リテ八十九年二
 月一日マテ五ケ年ノ延期ヲ布告セリ今年ハ其期限ニ達セ
 シニヨリ各國ニ協議シ承諾ヲ得テ一月三十一日更ニ五ケ
 年ノ延期ヲ布告シタリ

此クノ如ク追次延期シ千八百七十五年ヨリ今年ニ至ルマ
 テ滿十三ケ年間ハ既ニ實施シ來リ向後尙ホ五ケ年間即チ
 千八百九十四年ノ初ニ至ルマテハ實施スルヲ得ヘシト

雖元來混合裁判ハ其性質ニ於テ常置ノモノニアラス何
 時ニテモ廢止セラル、トヲ得ヘキモノナリ且ツ條約ノ文
 面ニテハ遂ニ治外法權ヲ撤去スヘキカ爲メニ假リニ此裁
 判所ヲ設ケタリト認ムルヲ得サルモノナリ即チ

第一 混合裁判ハ五ケ年ヲ以テ期限トナシタルニ因リ
 期限經過シテ終ヲ告クレハ消滅スヘシ故ニ常置ノ性

質ナシ構成規則
第四十條

第二 埃及政府ニ於テ保證ヲ履行セサルカ經驗ノ結果
 満足ナラサリシカ又ハ各國領事ノ自國民ノ保護ニ障
 碍アルカ此等ノ場合ニ於テハ各國政府ハ五ケ年ノ期
 限ヲ待タスシテ廢止スルヲ得ルニ因リ混合裁判ハ
 各國ノ認ムル所ニヨリテ何時ニテモ廢止セララルヘシ

第三 混合裁判ノ設置期限經過ノ後ハ之ヲ改正スルカ
又ハ廢シテ領事裁判ノ舊態ニ復スルカ此ニ途ヲ決ス
ヘクシテ混合裁判ヲ廢シテ埃及ノ法權ノミヲ單行ス
ルニ至ルヘキ明文ナク且ツ「カピチユラシヨ」ハ無限
ノ法トシテ存在スルニヨリ混合裁判ハ治外法權ヲ撤
去スルノ階梯ニアラサルナリ構成規則第四十條
及ヒ宣言第三項

(二) 混合裁判ハ埃及人ト外國人トノ間ニ起リタル訴訟及ヒ
國籍ヲ異ニスル外國人等ノ間ニ起リタル訴訟ヲ裁判スル
ニ過キスシテ埃及人等ノ間ニ起リタル訴訟及ヒ同國籍ノ
外國人等ノ間ニ起リタル訴訟ニ干與スルノ權ナシ而シテ
其性質ハ萬國のモノニシテ埃及政府獨リ之ヲ左右スル

ノ權理ナク各國モ亦條約諸國ノ協定ヲ以テ之ヲ存廢スル
ヲ得ト雖モ或ル一國ノ意見ノミニテハ自ラ退キテ其條
約ヲ脫スルヲ外ニ權理ナシ故ニ此裁判ヲ稱シテ埃及混
合裁判ト云フト雖モ其性質ヨリ直論スレハ萬國混合裁判
ト稱スルヲ適當ナルヘシ

(三) 混合裁判ヲ構成スル外國法官ハ埃及政府之ヲ任命スト
雖モ純乎タル外國籍ノ法官ニシテ公然外國法官トシテ法
廷ニ臨ミ外國法官ノ資格ヲ以テ埃及法律ヲ執行スルニ過
キス而シテ控訴院ニハ歐洲大國ヨリ始審裁判所ニハ一名ノ
佛人ヲ除クノ外小國ヨリ撰任スル規約アリ皆テ各國勢力
ヲ爭フ結果ニアラサルハナシ千八百七十五年十二月八日
佛國代議院ノ議事ニ於テエミール、ブウセ氏始審裁判所法

官分配ノ不當ヲ論シ埃及ニ在留スル佛國人ハ二万ニシテ僅カニ一名、白耳義人ハ僅カニ百十人ニシテ三名、和蘭人ハ二百二十人ニシテ三名、瑞典人ハ僅カニ一人ニ過キスシテ一名ノ法官ヲ有スト云フニ對シアルフレード、ヂュボン氏ハ白耳義法律ハ佛國ト同一ニシテ執法ノ主義モ裁判ノ慣習モ異ラサレハ白耳義法官ノ多キハ佛國ノ利ナリト云フヲ以テシ議院ノ頌賛ヲ得タリ其勢力ヲ爭フ一班ヲ見ルヘシ

(四) 控訴院ノ裁判ニテモ始審裁判所ノ裁判ニテモ外國法官ハ多數ヲ占メ構成規則第二條及ヒ第三條且ツ控訴院ニテモ始審裁判所ニテモ外國法官ハ其裁判ニ長タルニヨリ混合裁判所ノ裁判ハ外國法官ノ裁判ナリト云フヲ得ヘシ埃及法官ノ列席スル者ハ少數ニシテ勢力ナク到底其意見ヲ貫クヲ得サル

ノミナラス構成ノ始ヨリ埃及法官ノ意見ノ行ハル、ヲ妨ケタルハ千八百六十九年萬國委員會ノ議事ニ於テ三名ノ法官ヲ五名ト改正シタル精神ニ於テ既ニ明カナリトス

(五) 控訴院ハ最高ノ法廷ニシテ其上ニ立ツヘキ大審院ナシ故ニ他院ト權衡ヲ保ツモノナク又縱令不當ノ裁決ヲ與フルモ破棄セラル、ヲナシ千八百六十九年ノ委員會ニハ大審院又ハ覆審院ヲ置クノ議アリテ埃及政府之ヲ諾セシモ其權限ヲ定ムルニ至リテ衆議決セス遂ニ此等ノ法廷ヲ除キタレハ控訴院ハ無制限ノ法廷トナリ其情況議スヘキモノ多シ

(六) 構成規則第三十四條ニ「法律ノ沈黙、不備又ハ不明ナル場合ニ於テハ裁判官ハ性法ノ主義及ヒ公平ノ條理ニ從テ處

分スヘシトアリ此クノ如キ條款ハ歐洲諸國ニ在リテハ適用スル場合甚タ多カラス又モハヤ漠タル説ニアラス埃及ニ於テハ之ニ反シ新法典完全ナラスシテ此條ヲ實施スヘキ場合甚タ多シ而シテ外國法官ハ自由審議ノ方針ヲ執リ埃及法官ハ宗教及ヒ政事ノ束縛ヲ受ケ又各法官ハ各其據ル所ノ法理ヲ異ニスルニヨリ法律ノ缺漏ヲ補ハント欲シタル條款ハ却テ紛議ノ原因タリ

以上予ノ言ノ妄ナラサルヲ證シ併セテ實際ノ弊害ヲ知ラシメンカ爲メニ重複ノ嫌ナキニアラスト雖モエフ、マルタン氏ノ混合裁判ヲ論シタル一節ヲ左ニ抄譯スヘシ

マルタン氏云ク埃及近年ノ騷擾ニ重要ナル關係ヲ有スル萬國混合裁判ニ就キヨ、ニ數言ヲ述フヘシ
近年ノ騷擾トハ千八百八十

年ヨリ同二年ニ至リ遂ニアラビイ、
バシヤノ騷亂トナリシモノヲ云フ

此裁判所ハ「カピチユラシヨン」ノ力ニヨリテ外國人ハ地方人民ヲ相手取りテ訴訟スル時ノ外ハ地方裁判權ニ服セサル所ノ東方ノ一國ニ於テ始メテ設置シタルモノナリ千八百七十五年ニ至ルマテハ埃及二十七ヶ國ノ法權並ヒ行ハレテ紛議ノ絶ユルヲナカリキ元來領事裁判ナルモノハ其最モ良ク組織シタルモノニテモ常ニ濫用ノ弊ヲ免カレサルノミナラス他ノ開化國ヨリ設置シタル同種類ノ裁判所トノ間ニ紛議ヲ免カル、ト能ハサルヘシ埃及ニ於テハ歐洲諸國籍人ノ在留スル者夥多ナルニ因リテ此等ノ紛議ハ殊ニ甚シ加フルニ領事裁判ノ濫用ハ却テ正當適法ノモノナルカ如キ効力ヲ有シタリ殆ント判決コトニ就中埃及政

府ニ對シテ宣告シタル判決コトニ其最終ノ手段ニ至レハ
万國共同壓制ノ恐嚇ヲ以テ其判決ヲ是トシテ執行ヲ迫レ
ル外交書札ヲ送レリ

千八百六十七年以來埃及政府ハ領事裁判ヨリ生スル困難
ヲ免カレンカ爲メニ不撓ノ精神ヲ以テ盡力シタリ而シテ
遂ニ司法ノ改革ニ馴致シ歐洲諸國ヲシテ万國裁判所トリビュナルニ混合
所ヲ云フ以テ設置スヘキ改革案ヲ採用セシメタルハニ下之ニ同シバ
ル、パシヤノ争フヘカラサル功勳ナリ此裁判所ヲ組織スル
法官ハ歐洲ノ法官ヲ以テ多數トナシ且ツ其法官ハ歐洲諸
政府ノ推薦ニヨリテケデーウ殿下之ヲ任命スヘキモノナ
リ

万國裁判所ノ熱心ナル反對者ニテモ此裁判所ヲ設置シタ

ルハ埃及ノ爲メニハ美舉ナリシト云フヲ争ハサルヘシ
又何人モ此裁判所ハ領事裁判所ニ優レリト許ストニ躊躇
スルモノナカルヘシ然ルニ此等ノ裁判所就中アレキサン
ドリイ控訴院第一副長ラベンナ氏ハ歐洲一二政府ノ政畧
及ヒ其臣民ノ商畧ニ對シテ無關係ノ證ヲ示シタルカ爲メ
ニ此裁判所ニ反對論ヲナス者ノ數甚タ多シ万國裁判所ハ
現行組織ニテハ埃及國內ニ於テ歐洲全盛ノ顯著ナル表章
タルヲ疑ナシ試ニ見ヨ埃及法官ノ訴訟ニ干與スルヲハ殆
ント何等ノ効力モ之ナシ歐洲法官ハ何ツレノ裁判ニモ全
盛力ヲ占メ之ニ反シテ埃及法官ハ云フニ忍ヒサルノ地位
ニアリ裁判所ノ判決ハ歐洲ノ法理ニ從ハサルヲ得スシテ
而シテ其法理ハ埃及人民ノ解セサルノミナラス埃及法官

ト雖^レ充^テ分^ニ了^解セ^ザル^モノ^ナリ^ト埃^及人^ハ佛^國法^律家^ノ
 起^草シ^{タル}埃^及法^典ヲ^遵奉^セザ^ルヘ^カラ^ザル^ニ因^リ万^國
 裁^判所^ハ埃^及人^ヲン^其法^典ニ^從テ^權理^ヲ論^證セ^シメ^サル^ヲ
 得^スト^雖レ^埃及^人ハ^其法^典ニ^示ス^所ノ^如何^ヲ知^ルノ^力
 ナ^シ此^等ノ^事情^ニヨ^リテ^埃及^人ニ^シテ^若シ^代言^人ヲ^有セ^ザ
 サ^ルト^キハ^其權^理及^ヒ利^益ヲ^毫モ^保護^スル^ヲ得^ス而^シ
 テ^代言^人ニ^依賴^シタル^キハ^其訴^訟ヲ^全ク^代言^人ニ^放任^ス
 ル^ノ外^ナシ^加フル^ニ埃^及人^ハ法^廷ニ^於テ^充分^ノ辯^論ヲ^ナ
 ス^ヲ得^ス相^手人^ハ頓^着ナ^シニ^佛蘭^西語^或ハ^伊多^利語^ヲ
 以^テ辯^論シ^埃及^國語^即チ^アラ^ビヤ^語ハ^全ク^度外^ニ放^棄セ^ラ
 ラ^ル此^場合^ニハ^公然^ノ資^格ヲ^有ス^ル翻^譯官^アレ^レ其^翻譯^ハ
 ハ^兩造^ノ意^思ヲ^通ス^ルニ^於テ^精確^ナリ^ト云^フヲ^得サ^ル

ノ^ミナ^ラス^其智^力ノ^發達^モ亦^充分^ナリ^ト云^フヲ^得サ^ル
 ナ^リ

又^萬國^混合^裁判^所ハ^主權^者ノ^權理^ヲ押^領シ^テ之^カ爲^メニ^ケ
 ゴ^デー^ウ自^身ヲ^モ戰^慄セ^シム^某々^ノ稅^ハ適^法ナ^ラス^ト宣^言
 シ^ケゴ^デー^ウノ^政府^ヲシ^テ不^法ノ^稅ヲ^拂ヒ^タリ^ト自^稱ス^ル
 者^ニ其^稅ヲ^返還^セシ^メ且^ツ其^損害^ヲ賠^償セ^シム^又此^裁
 判^所ハ^ケゴ^デー^ウノ^身分^ニ對^シテ^モ埃^及國^家ニ^對シ^テモ^及
 ビ^行政^官ニ^對シ^テモ^其意^思ニ^反シ^テ判^決ヲ^與ヘ^タリ^而シ^テ
 テ^其判^決ヲ^受ク^ル者^ハ皆^テ適^法ノ^權理^ヲ實^行シ^{タル}モ^ノ
 ナ^リ

是^ニ因^テ之^ヲ觀^レハ^司法^改革^ハ埃^及政^府ヲ^シテ^著シ^ク人^民
 ノ^信用^ヲ失^ハシ^メタ^リ混^合裁^判ハ^其實^ヲ云^ヘハ^甚タ^廣

中法權ヲ埃及國內ニ實行スル外國裁判所ナリ世人若シ埃及政府ヲ非難スルニ於テハ此裁判所ガケヂーウ自身ニ對シテ其主治者タルモノ、如クナルヲ解セサル可ラス
 埃及混合裁判ハ大略前陳ノ如キモノナリ而シテ埃及政府ハ何故ニ此クノ如キ裁判ヲ設置セサルヲ得サリシヤハ既ニ記スルカ如ク治外法權ヲ撤去セント欲シテ撤去スル能ハス遂ニ此裁判ヲ設置シタルニ外ナラスト雖モ其コ、ニ至リタル所以ノモノ抑故アルナリ現埃及ノ建國者メヘメーアライハ英邁ノ資ヲ以テ其威力殆ント全土國ヲ席卷スルヲ得ルニ拘ラス各國ノ壓制ヲ甘諾シテ現埃及ヲ創始シ銳意國政ヲ改革セシハ痛快ノ舉ナリ然レモ其後嗣及ヒ國民ハ智力財力共ニ其盛舉ニ件フ能ハス又件フヲ勉メス區々目前ノ奢侈ヲ求

又目前ノ利害ヲ爭ヒ遂ニ外國ノ干涉ヲシテ益々深カラシメ憂國ノ士アリト雖モ奈何トモスルヲ能ハサルニ至ラシメタリ若シ當時埃及政府及ヒ國民ヲシテ目前ノ事物ニ區々スルヲ止メ大ニ其智力財力ヲ養ヒ以テ外交ノ衝ニ當ラシメハ故國改造殆ント四十年ノ後千八百四十年倫敦會議ヨリ千八百七十五年混合裁判ノ設置ニ至ルマテ三十六年此クノ如キ裁判ヲ設クルヲアルヘケンヤ況ンヤ混合裁判モ亦外國人ノ手ニ成ルニ於テサヤ各國ノ埃及ニ對スル處置ノ當否ハ贅論ヲ俟タス埃及ヲシテ此境ニ至ラシメタルハ埃及政府及ヒ國民ノ罪ナリト云フヘシ
 終ニ臨ミ本論ノ外ニ出ツルノ恐アリト雖モ再ヒマルタン氏ノ説ヲ引用シテ埃及財政ノ一斑ヲ示スヘシ

マルタン氏云クサイド、パシヤノ治世ヨリサイド、パシヤハ

ノ第四子ニシテ千八百五十四年ヨリ歐洲ヲ羨望スルノ風盛
 同六十三年ニ至ルマテ埃及副王タリ歐洲ヲ羨望スルノ風盛
 ニ埃及ニ行ハレ之カ爲メニ最モ辛ラキ契約ニテ國債ヲ歐
 洲ヨリ募集シ其情殆ント飽ヲ知ラス故ニイスマイル、パシ
 ヤイスマイル、パシヤハ千八百六十三年其伯父サガニール河ノ
 イド、パシヤノ後ヲ繼キテ埃及副王トナレリ沿
 岸即チ埃及國ニ來遊スル歐洲人ニ誇ランカ爲メニ費ヤセシ
 驕奢物件及ヒ其他ノ浪費ハ總テ巴里及ヒ倫敦ニ於テ募集
 シタル國債ニ非ラサルハナシ然ルニ千八百七十五年混合
 裁判ニ至リ歐洲ノ理財市場ニ於テ埃及ノ信用全ク地
 ニ墜チイスマイル、パシヤハ遂ニ國債ノ償還ヲ止メタレハ
 翌千八百七十六年ニハ埃及政府ハ破産シタルモノト公認
 セラレタリ當時ノ調査ニヨレハ國債ノ總計ハ實ニ英貨八
 千七百万磅ノ巨額ニ達シタリト云ヘリ

於是英佛ノ債主ハ各其政府ノ援勢ニヨリテケデーウニ矢
 ノ如キ督促ヲ始メ遂ニ債主及ヒ債主ノ政府ヨリ埃及財政
 ノ實況ヲ查明シ且ツ埃及財源ノアラニ限リハ歐洲ノ債主
 ニ交附セシムヘキ決定ヲ承諾セシムル爲メニ相當ノ權理
 ヲ與ヘテ委員ヲ埃及ニ派遣セリ此時ニ方リ先ツ外債ニ次
 キニ其國ニトノ主義ハカーウ、ゴツセン、ヂユーベル、ウイ
 ソン及ヒ其他ノ諸氏ノ如キ理財家ノ發明シタル財政處理
 ノ原則ナリキ千八百七十八年債主ニ拂ハシムヘキ方法ニ
 關シテ埃及財政ノ組織及ヒ實際ノ情況ヲ審議セシムル爲
 メニ萬國高等調査委員ヲ設ケタリ此委員ノ報告ハ痛クケ
 デーウノ私人政府ナルヲ責メテ行政ノ改革ヲ要求シタ
 リ

ケデーウハ報告ニ載セタル決案ヲ採納シテ「獨立内閣」ノ主旨ニ基キタル政府ヲ速カニ樹立スヘキ旨ヲ宣言シ千八百七十八年八月二十八日ノ勅諭ヲ以テアルメニヤ人ニユバル、パシヤヲ議長トシテ新内閣ヲ組織セシメタリ此内閣ニ於テ大藏大臣ノ職ヲウイルソン氏英ニ工部大臣ノ職ヲド、ブリニイエール氏佛ニ與ヘタレハ埃及内閣中ニ三名ノ外國人アリ而シテ埃及國民ニ與ヘタル憲章ニ宣言シタル所謂「獨立内閣」ハ遂ニケデーウヲ其政府ノ外ニ退クルニ至レリ

千八百七十九年ノ始ニ至リニユバル、パシヤ其職ヲ辭セリ是レ英國ガ其才智ヲ妬ミテ強テ辭職セシメタルナリ於是ケデーウハ其子テウヒイク、パシヤヲ議長トシテ一内閣ヲ

組織セシメタレモ政府ノ全權ハ依然トシテウイルソン及ヒド、ブリニイエール二氏ノ手ニ存シ且ツ二氏ノ權威ハ其一言ニヨリテ立法又ハ行政ノ所置ヲ無効ニ歸セシムルヲ得タリ爾後テウヒイク、パシヤ其職ヲ辭シ而シテケデーウハ此二名ノ外國大臣ヲ放還シテセリフ、パシヤヲ内閣議長トナシ自國人ノ内閣ヲ任命シタリ
英佛政府ハ埃及ノ此クノ如キ處置ヲ喜ハス土帝ノ宗主權アルヲ主張シテ同帝ニ請求スルニイスマイル、パシヤノ讓位ヲ以テシタレハ遂ニイスマイル、パシヤハ其位ヲ去リテウヒイク、パシヤ、ケデーウノ位ニ即ケリ
歐洲ノ二大國 英佛ハ外國人ノ内閣設置ヲ新ケデーウニ迫ルヲチナサ、ルヘシト決議シケデーウヲシテ自國人ノ内

閣ヲ組織スルノ自由ヲ得セシメタリト雖モ自國人ノ内閣ハ英佛ヨリ派遣シタル二名ノ官吏ノ監督ヲ受クルコトナセリ此官吏ヲ稱シテ「總監督官」ト云フ千八百七十九年十一月十五日ケデーウノ勅令ヲ以テ定メタル總監督官ノ權限ハ左ノ如シ

總監督官ハ英佛兩政府ニ於テ任命シ顧問ノ資格ヲ以テ内閣會議ニ列席シテ其議事ニ參與シ公務上最モ廣キ監察ノ權理ヲ有シ其監察ニヨリテ生シタル意見ヲケデーウニモ又諸省大臣ニモ直チニ告知スルノ權アリ又每年末ニ一週年ノ事業ヲケデーウニ報告スルノ外必要ト認メタルキハ何時ニテモ其指揮ニヨリテ調製シタル報告ヲ埃及官報ニ登載シテ公布スルノ權アリ之ヲ約言スレハ總監督官自身

ノ覺書ニモ云フ如ク直接ニ行政ノ實務ニ干與スルコトナシト雖モ行政上ノ總テノ處置ニ對シテ埃及政府ノ万機ニ顧問官ノ名義ヲ以テ參與シ及ヒ干涉シ且ツケデーウニ報告スルノ權理ヲ有セリ總監督官ノ權限ハ大畧此クノ如シ而シテ其職務ノ實行ニ於テケデーウニ對シテハ諸省大臣同様ノ責任ヲ取レリ

總監督官ノ權限ハ以上記スル如クナルニヨリ立法行政ノ實權ハ總テ總監督官即チ英佛兩政府ヨリ派遣シタル委員ノ掌中ニ歸セリ此兩委員ハ埃及大臣ノ措置セント欲スル各行政經畫ノ必要ナルヤ否ヤヲ審査スルノ權理アリテ其經畫ヲ許否スルコトヲ得現ニ近頃ノ紛擾ニ際シ總監督官自身ニ英佛政府ハ埃及ノ財源ヲ適法ニ消費スルコトニテモ埃

及政府ノ自由ヲ許サ、ルカ爲メニ吾々ヲ任命セリト明言シタリ故ニ英佛ノ監督ハ埃及政府ノ機關ヲ混乱シケザルヲウノ政府ヲシテ其國民ノ信用ヲ失ハシメ苟クモ外國債主ノ利益ヲ害スルモノナランニハ總テ立法行政ノ改革ヲ抑遏スルヲ以テ目的トナセル政略的ノモノナリ政府ノ面目ヨリ觀察セハ政府ノ存立ト併行スルヲ得サルモノナリ然ルヲ此組織ヲ稱シテ適例ナキ幸福ノ時期ヲ埃及ニ創始セリトナスハ大膽ナル臆測ニアラサレハ能ハサルナリ千八百八十一年ヂセイ氏著「英國及ヒ埃及」ト題スル書ニ「適例ナキ幸福ノ時期ヲ創始セリ」トノ言アリ

此クノ如キ財政ノ情況ト混合裁判ノ弊害トヲ參觀セハ埃及ノ國情ヲ推知スルニ餘アルヘシ

又今年出版ノ「アルマナツク」ド、ゴタ」ヲ見ルニ千八百八十七年

一昨 埃及ノ歳入ハ埃及貨幣千七百九十五万五千七百九十四磅、歳出ノ額ハ歳入ニ等シ而シテ其國債ハ千八百八十八年ノ調査ニヨレハ埃及貨幣一億〇三百〇二万七千九百八十磅ニシテ、英、佛、伊、獨、露ノ六國ヨリ國債ノ監督ニ委員ヲ派遣シ置ケリ

記シテ、コ、ニ至ラハ予ノ本論ノ始メニ述ヘシ如ク主權獨立對等ノ如キ國家固有ノ權理ハ空論ヲ以テ有スヘキモノニアラサルヲ知ルヘシ國ノ實力ヲ養ハスハ何ツレノ國モ此轍ヲ履マサルヲ保セス。豈唯埃及ノミナランヤ

附錄

千八百七十五年十二月十七日發布佛國法律

單一條款 此法律ニ附属シタル三通ノ書類ニ於テ定メタル
區域並ニ條款ニ從テ、五ケ年ヲ超ヘサル期限間、政府ハ埃及ニ
在留スル佛國領事ノ管轄權ヲ仮リニ制限スルヲ得

(二)覺書

千八百七十四年十一月十日ケザール殿下ノ司法大臣セリ
フ、パシヤ閣下ト佛國外交官總領事侯爵ド、カゾー氏トガ各
其政府ノ命令及ヒ訓令ニ從テ、埃及裁判改革ニ佛國政府ノ
同意スヘキ條件ヲ協定センカ爲メニ最終ノ會議ヲ開ラキ
左ノ決議ヲナセリ

一 構成規則第二篇第八條(ト)項ニ記載シタル詐偽破産

ノ訴訟ハ、從來ノ如ク、被告人ヲ管轄スルノ權アル裁判所
 ノ管轄タルヘシ此覺書ニ於テ删除シタルニヨリ下文ニ載
 スル構成規則第二篇第八條ニハ(ト)項ナシ
 二 始審裁判所ノ判事ヲ撰任スルカ爲メニ、埃及政府ハ、
 控訴院評定官ノ任命ト同様ノ手續ニヨリテ佛國司法大
 臣ニ請求スヘシ、而シテ此手續ニヨリ推薦セラレタル法
 官ハケール府始審裁判所ノ勤務タルヘシ
 三 檢事ノ内一人ハ佛國法官ノ内ヨリ撰任セラルヘシ、
 而シテ若シケール或ハザガジイノ裁判所ノ内ニテ第二
 局ヲ設ケ又其設置ニヨリテ檢事局員ノ増加アルニ於テ
 ハ、其檢事ノ内一人モ亦佛國法官ノ内ヨリ採用セラルヘ
 キヲ特ニ協定ス
 四 埃及法典ノ改正ニ關シテハ、佛國政府ニ於テ其改正

ヲ承認スル旨ヲ埃及政府ニ通知シタル日ヨリ十五日間
 ニ新法律ノ編纂及ヒ經濟ヲ明瞭ニセンカ爲メニ詳細諸
 點ヲ示シ並ニ異議ヲ避クヘキ爲メニ必要ナル修正ヲ發
 議スル所ノ書札ヲ佛國外交官總領事ヨリセリフ、パシヤ
 閣下ニ送致スヘシ
 五 構成規則第九條ニ示シタル身分ニ關スルレセルツ節制ハ、此
 規則ノ本文ニ再掲スヘシ
 六 局ノ構成ニ就キテハ、佛國政府ハ歐洲人ニ關スル事
 件ヲ裁判スル所ノ法官ハ、成ルヘキ丈ケ、被告人ノ屬スル
 國籍ノ法官タルヘキヲ請求シ、而シテ埃及政府ハ、新法
 官ハ獨リ自ラ其執務順序ヲ定ムヘシト雖モ、此點ニ付キ
 注意ヲ求ムヘシト約セリ

佛國政府ト同様ノ希望ヲ述ヘタル墺國政府モ前同様ノ返答ヲ得タリ

七 外國領事館及ヒ其所屬吏員ガ外交上ノ慣例及ヒ現行條約ニヨリテ目下享有スル所ノ優待、特權、特恩及ヒ免除ハ其全部ヲ維持スヘシ、故ニ外交官總領事、領事、副領事以上ノ者ノ家族及ヒ以上ノ官吏ニ附屬スル者ハ、總テ新裁判所ニ於テ裁判セラルヘキモノニアラズ、又新法律ハ此等ノ人及ヒ其住居スル家屋ニ適用セラル、^レトナ得ス同様ノ節制^レハ佛國ノ保護ノ下ニ在ル「カトリック」建設物ノ、宗教ノモノタルト、教育ノモノタルトナ問ハス、適用セラルヘキ^レトナ特ニ明示ス

八 新法律及ヒ新裁判所構成規則ハ、埃及民法ニ記載シタル主義ニ從テ、其以前ニ溯リテ効力ヲ有スル^レトナシ

九 埃及政府ニ對シテ目下既ニ起訴中ノモノハ、兩國政府ノ協定ニヨリテ撰任シタル控訴院ノ三名ノ法官ヲ以テ組織シタル委員會ニ移スヘシ、委員會ハ主權者トシテ且ツ上告ヲ許ス^レトナシニ、裁定ヲ與フヘシ、其訴訟手續ハ委員會自ラ之ヲ定ム

十 然レモ若シ訴訟人希望スルニ於テハ同上ノ訴訟ヲ裁判所ノ法官又ハ控訴院ノ法官ヲ以テ組織シ且ツ埃及國ト墺國及ヒ其他ノ諸國トノ間ニ既ニ取極メタル條款ニ從テ設定シタル始審特別局及ヒ控訴特別局ニ移ス^レトナ得ヘシ

此二局ハ、新法廷ノ訴訟規則ニ從テ裁決スヘシト雖モ其

事件ノ訴訟ヲ起因シタル時ニ行ハレタル法律及ヒ慣習ニ因テ判決ヲ與フヘシ

十一 各國籍ニ屬スル數人ノ間ニ同時ニ起リタル訴訟ハ、以上兩方法ノ内ニテ、各國籍ノ總領事ノ間ニ協定シタルモノニ從テ裁決スヘシ

十二 此事務規則ハ、新裁判所ノ設置ト同時ニ始リ其事務ノ存在スル間繼續スヘシ

此覺書ニ示シタル條款ハ、迅速ニ兩國政府ニ送致シテ批准ヲ乞フヘシ

(二)埃及國混合訴訟ノ爲メニ設ケタル裁判構成規則

第一篇 民事及ヒ商事裁判權

第一章 始審裁判所及ヒ控訴院

第一節 設置及ヒ組織

第一條 始審裁判所ヲ三ヶ所ニ設クヘシ、其場所ハアレキサンドリイ、ケール及ヒザガジイトス

第二條 各裁判所ニ七名ノ判事ヲ置キ、其内、四名ハ外國判事、三名ハ本國判事タルヘシ

宣告ハ、三名ノ外國判事、二名ノ本國判事ヨリ構成シタル、五名ノ判事ニ因テ言渡サルヘシ

外國判事ノ内一名、副長ノ名義ヲ以テ議事ニ長タルヘシ、而シテ副長ハ、其裁判所ノ外國判事及ヒ埃及判事ノ投票過半数ニヨリテ撰任セララルヘシ

商事裁判ニハ始審裁判所ニ外國人一名埃及人一名、合セテ二名ノ商人ヲ加フ、此商人ハ公撰セラレ而シテ決議ニ加ハ

ルノ權ヲ有スヘシ

第三條 アレキサンドリイニ十一名ノ法官ヨリ組織シタル控訴院ヲ置ク、其法官ノ内、四名ハ埃及人、七名ハ外國人タルヘシ

外國法官ノ内一名、副長ノ名義ヲ以テ議事ニ長タルヘシ、其撰舉ハ始審裁判所副長ト同様ノ手續ニ因ル

控訴院ノ判決ハ五名ノ外國法官、三名ノ埃及法官ヨリ構成シタル、八名ノ法官ニ因テ言渡サルヘシ

第四條 控訴院ニ於テ、執務ノ需要ニヨリテ増員ノ必要ヲ認メタルキハ、外國判事及ヒ埃及判事ニ對シテ定メタル割合ヲ變更スルヲナシニ、控訴院及ヒ始審裁判所ノ法官ノ數ヲ増加スルヲ得

控訴院ニ於テ又ハ始審裁判所ニ於テ、一時ニ數名ノ法官不在又ハ差支アル場合ニハ、他日増補スルニ至ルマテ、控訴院長ハ、若シ其不在又ハ差支アル者外國判事ナランニハ、他ノ始審裁判所ノ同僚又ハ控訴院ノ法官ヲシテ、一時其補欠ニ充ツヘシ、但シ控訴院ノ法官ニシテ始審裁判所ノ審判ニ列席スルキハ、其裁判ノ長タルヘシ

第五條 判事ヲ任命及ヒ撰拔スルハ埃及政府ノ權内ニ属ス、然レモ其撰拔スル所ノ人物ヲ埃及政府自ラ確カメンカ爲メニ、私ニ外國ノ司法大臣ニ照會スヘシ、而シテ其本國政府ノ承認及ヒ許可ヲ得タル者ニアラザンハ傭使セス

第六條 控訴院及ヒ各始審裁判所ニ、書記一名及ヒ其書記ヲ代理スルヲ得ヘキ、宣誓シタル數名ノ書記補ヲ置クヘ

第七條 控訴院及ヒ各始審裁判所ニ、相當ノ人員ヲ定メテ宣誓シタル通辯及ヒ公判ノ庶務書類ノ調製並ニ宣告ノ執行ヲ掌ルヘキ必要丈ケノ使吏^{トイシエ}ヲ置クヘシ

第八條 書記、使吏及ヒ通辯ハ、最初埃及政府ニ於テ任命スヘシ、又書記ハ最初ハ外國ニ於テ現ニ其職ニ居ル者或ハ嘗テ其職ニ居リタル裁判所ノ官吏ノ内、或ハ外國ニ於テ同様ノ職務ヲ執ル^トヲ得ヘキ者ノ内ヨリ撰拔スヘシ而シテ其所屬ノ裁判所ハ之ヲ免スル^トヲ得

第二節 管轄

第九條 此裁判所ハ埃及人ト外國人トノ間及ヒ國籍ヲ異ニスル外國人等ノ間ニ起リタル民事及ヒ商事ノ訴訟ヲ裁

判ス但身分ニ關スルモノヲ除ク

又此裁判所ハ何人ノ間ニ起リタルモノニテモ、不動産ニ關スル物權上ノ訴訟ヲ裁判ス、同國籍ノ外國人等ノ間ニ起リタルモノニテモ亦同シ

第十條 埃及政府、行政官廳並ニケデーウ殿下及ヒ其一族ニ屬スル「ダイラ」ハ、外國人ニ關スル訴訟ニ於テ、此裁判所ノ裁判ヲ受クヘシ

第十一條 此裁判所ハ、國有財産ニ對シテ判決スル^トヲ得ス、又行政處分ノ執行ニ立入り又ハ之ヲ妨止スル^トヲ得スト雖モ民法ニ記載シタル場合ニ於テ、行政上ノ處置ヲ以テ外國人ノ既得權ヲ傷害シタルニ就テノ訴訟ヲ裁判スル^トヲ得

第十二條 寺院ヲ相手取りテ、其所有ノ不動産ヲ收要スヘキ請求ハ、此裁判所ニ於テ受理セス、然レモ適法ノ占有權ヲ爭フ訴訟ハ、其原告又ハ被告ノ何人タルヲ問ハス、之カ判決ヲ與フヘシ

第十三條 所有者及ヒ占有者ノ何人タルヲ問ハス其不動産ヲ外國人ニ質入シタル事實ノミニヨリテ其質入ノ有効ナルヤ否ヤ及ヒ其不動産ヲ糶賣シ並ニ代價ヲ分配スルニ至ルマテ、其質入ヨリ生スル總テノ事件ヲ裁決スルコトハ此裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十四條 始審裁判所ハ其判事ノ内一名ヲ、治安裁判官ノ資格ヲ以テ分遣シ、兩造ヲ勸解シ、及ヒ訴訟法ニ定メタル諸件ヲ裁判セシムヘシ

第三節 審判

第十五條 審判ハ、風俗及ヒ安寧ノ爲メニ裁判所ニ於テ理由ヲ記シタル決定ヲ以テ陰密ヒソカニヲ命シタル場合ヲ除クノ外、公開スヘシ且ツ辯護ハ自由タルヘシ

第十六條 辯論、口供、宣告ノ調製ノ爲メニ裁判所ニ於テ用フル法律國語ハ、埃及語、伊多利語及ヒ佛蘭西語タルヘシ

第十七條 代言證書ガテロムヲ有スル者ノミ、控訴院ニ於テ原被告ノ名代トナリ及ヒ辯護スルコトヲ得ヘシ

第四節 裁判執行

第十八條 裁判ノ執行ハ領事及ヒ其他一切行政官ノ干與ノ外ニ於テ、裁判所ノ命令ヲ以テスヘシ、裁判所ノ使吏ハ此執行ニ命セラレヘシ但必要ナル場合ニ於テハ地方官ノ助

力ヲ求ムヘシト雖_レ如何ナル場合ニ於テモ行政官ノ干涉
ヲ受ケサルヘシ

然_レ裁判所ヨリ執行ヲ命セラレタル裁判所ノ官吏ハ執
行ノ日及ヒ時ヲ領事館ニ告知スヘシ、若シ告知セサルニ於
テハ其執行ハ無効ニ歸シ且ツ損害賠償ノ訴ヲ受クヘシ、告
知ヲ受ケタル領事ハ執行ニ立會フヘキ權理アリト雖_レ若
シ立會ハサルキハ之カ爲メニ執行ヲ止ムルヲナシ

第五節 法官ノ不易イナモウイビレナイ——昇進——兼職ノ禁——懲誡

第十九條 控訴院及ヒ始審裁判所ヲ組織スル法官ハ不易
ノ者タルヘシ

不易ハ五ケ年ノ期限間ニ過キス、此經驗ノ期限後ニアラサ
レハ確然不易ノモノト定メラル、ヲナシ

第二十條 法官ノ昇進及ヒ此始審裁判所ヨリ彼始審裁判
所ニ轉任スルヲハ其法官ノ承諾及ヒ控訴院ニ於テ關係裁
判所ノ意見ヲ聞キテ與ヘタル裁定ニ因ルニアラサレハ爲
スヲ得ス

第二十一條 法官書記書記補通辯及ヒ使吏ハ俸給ヲ受ケ
テ他ノ職務ヲ兼ヌルヲ及ヒ商賈ノ業ヲ營ムヲ得ス

第二十二條 法官ハ埃及行政官ヨリ榮譽又ハ實品ノ褒賞
ヲ受クルヲ得ス

第二十三條 同階級ノ判事ハ總テ同額ノ俸給ヲ受クヘシ
俸給以外ノ褒賞俸給ノ増加有價物或ハ其他ノ實利アル贈
與ヲ受ケタル判事ハ報償ヲ求ムル權理ヲ得ルヲナシニ、其
職務及ヒ俸給ヲ失フヘシ

第二十四條 法官、裁判所ノ官吏及ヒ代言人ノ懲誠ハ控訴院ニ屬ス、法官ニ適用スヘキ懲誠ハ、若シ其判事タルノ名譽ヲ汚シ或ハ投票ノ獨立ヲ害シタルキハ、賠償ヲ求ムル權理ヲ與フルヲナシニ、其職ヲ免シ及ヒ其俸給ヲ奪フトトス、代言人ニ適用スル懲誠ハ、其名譽ヲ汚シタルキハ、控訴院ニ於テ辯論スルヲ許サレタル代名人名簿ヨリ除名スルヲニシテ其宣告ハ出席評定官ノ四分ノ三ノ多數ヲ以テ開ラキタル總會議ノ公廷ニ於テ言渡スヘシ

第二十五條 判事ニ對シ懲誠ヲ請フ爲メニ、領事團體ノ一人ヨリ埃及政府ニ求メタル上訴ハ、控訴院ニ送致シ同院ニ於テ審議スヘシ

第二章 檢事局

第二十六條 一檢事局ヲ設ケ檢事長フロキエールセテラルヲ以テ其長トナスヘシ

第二十七條 檢事長ハ控訴院及ヒ始審裁判所ニ於テ審判及ヒ司法警察ノ事務ニ必要ナル丈ケノ檢事ヲ其指揮ノ下ニ置クヘシ

第二十八條 檢事長ハ控訴院及ヒ始審裁判所ノ諸局、刑事諸公廷並ニ控訴院及ヒ始審裁判所ノ諸總會ニ參席スルヲ得

第二十九條 檢事長及ヒ檢事ハ不易ノ官ニアラス、其撰任ハケデーウ殿下之ヲナスヘシ

第六節 特別及ヒ一時條件

第三十條 法官、通辯及ヒ翻譯文ニ對シ故障ヲ述フルノ權

ハ原被両造之ヲ有ス

第三十一條 始審裁判所ノ各書記局ニハ、不動産所有權並ニ不動産特許權ノ移動事務ニ關シ書記ヲ助ケ且ツ「メケメ」ニ送附スヘキ公文ヲ調製スル爲メ「メケメ」ノ吏員一名ヲ置クヘシ「メケメ」ハ埃及舊來ノ裁判所ナラン

第三十二條 又「メケメ」ニハ始審裁判所ノ書記ヲ派遣シ置キ、不動産書入質ヲ登記セシムル爲メニ不動産所有權ノ移動及ヒ質入ヲ「メケメ」ニ通報セシムヘシ

此通報ヲ爲サ、ル者ハ損害要償及ヒ懲誠處分ヲ受クヘシ、但其カ爲メニ證書ノ無効ニ歸スルトナシ

第三十三條 契約贈與及ヒ書入質或ハ不動産所有權ノ移動ニ關スル書類ニシテ始審裁判所ノ書記ニ於テ受理シタ

ルモノハ原書ノ價值アリ、而シテ其原本ハ書記局ノ記録室ニ保存スヘシ

第三十四條 新裁判所ハ民事及ヒ商事管轄權ノ施行ニ於テ並ニ同裁判所ニ委任セラレタル刑事管轄權ノ區域ニ於テ、埃及政府ヨリ各國ニ送附シタル法典ヲ適用スヘシ、而シテ法律ノ沈黙シランス不備又ハ不明ナル場合ニ於テハ裁判官ハ性ボロフ法ノ主義及ヒ公平ノ條理ニ從テ處分スヘシ

第三十五條 埃及政府ハ、新裁判所ノ事務ヲ始ムル一ケ月前ニ法典ヲ公布スヘシ又其執務ニ至ルマテニ、各法律國語ヲ以テ記シタル法典各一部ヲ各「ムダリエ」各領事館及ヒ控訴院並ニ裁判所ノ書記局ニ送附スヘシ、而シテ此數ヶ所ニハ常ニ一部ヲ保存シ置クヘシ

第三十六條 又埃及政府ハ、埃及人ノ身分ニ關スル法律、裁判費用定則、土地、堤防及ヒ溝渠ニ關スル條例ヲ發布スヘシ

第三十七條 控訴院ハ、審判廷ノ警察、始審裁判所及ヒ裁判所官吏並ニ代言人ノ懲誡及ヒ審判ニ原被ヲ代表スヘキ名代人ノ義務、司法救助局ニ資力ナキ者ノ受理、裁判官ニ對スル故障ノ權理施行及ヒ會議投票正半ナリシキ控訴院ノ判決ヲ與フヘキ方法ニ關スル司法總則ヲ立案スヘシ

其立案シタル總則案ヲ始審裁判所ニ送リテ意見ヲ聞キ、而シテ終結ノ爲メニ控訴院ニ於テ再ヒ審議シタル後、司法大臣ノ布達ヲ以テ實行スヘシ

第三十八條 民事及ヒ商事ニ關シ、裁判所ハ設立後一ヶ月ヲ過キサレハ、交渉事件ヲ判決セサルヘシ

第三十九條 裁判所設置ノ時、既ニ外國領事館ニ起訴シタル訴訟ハ、終結ニ至ルマテ舊規ニ因ルヘシ、然レモ原被ノ請願及ヒ關係人ノ承諾アルニ於テハ、其訴訟ヲ新裁判所ニ移ストヲ得

第四十條 新法律及ヒ新裁判所構成法ハ、其制定前ニ溯リテ効力ヲ有スルヲナシ

第二篇 被告外國人ニ關スル刑事裁判權

第一章 違註罪裁判所、輕罪裁判所及ヒ重罪裁判所

第一節 組織

第一條 外國人ノ告訴セラレタル違註罪ノ判事ハ始審裁判所ノ外國判事中ノ一人タルヘシ

第二條 輕罪事件ニ於テモ重罪事件ニ於テモ會議局ハ、三

名ノ判事内一名ハ埃及人、二名ハ外國人ニシテ、其外ニ四名ノ外國助役ヲ以テ組織スヘシ

第三條 輕罪裁判所モ同様ノ組織タルヘシ

第四條 重罪裁判所ハ三名ノ評定官内一名ハ埃及人、二名ハ外國人ヲ以テ組織スヘシ

十二名ノ陪審官ハ外國人タルヘシ

以上種々ノ場合ニ於テ助役及ヒ陪審官ノ半數ハ被告人ノ請求アルニ於テハ、被告人ノ屬スル國籍ノ者タルヘシ、若シ被告人ノ屬スル國籍ノ陪審官或ハ助役其定員ニ滿タサルキハ、被告人其補充スヘキ人員ノ國籍ヲ示スヘシ

第五條 若シ被告人數名ナルキハ、陪審官或ハ助役ノ數ヲ増加スルヲ得スト雖モ、被告人各自同數ノ國籍陪審官或

ハ助役ヲ請求スルノ權理アリ、但其數ノ割合ニ於テ若シ各其權理ヲ行フヲ得サルキハ、抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二節 管轄

第六條 違註罪ノ訴及ヒ其他下條ニ記スル重罪及ヒ輕罪ノ主及ヒ從ニ對スル訴ハ新裁判所ノ管轄ニ屬スヘシ

第七條 職務執行中或ハ執行セントスル場合ニ於テ、法官、陪審官及ヒ裁判所ノ官吏ニ對シテ直接ニ犯シタル輕罪及ヒ重罪

即チ

(イ) 形容、言語或ハ脅迫ニヨリテ爲シタル侮辱

(ロ) 法官、陪審官又ハ裁判所ノ官吏ノ面前ニテモ又ハ公庭内ニテモ、高言シタル、若クハ張札、筆記、印刷、圖畫或

ハ記號ヲ以テ公布シタル嘲弄、誣讒

(ハ) 法官、陪審官又ハ裁判所ノ官吏ノ身体ニ對シ豫謀ノ有無ヲ問ハス故意ヲ以テ毆打、傷痕及ヒ殺害ノ如キ暴行

(三) 不正或ハ不法ノ處置ヲ得ルカ爲メニ、又ハ正當或ハ適法ノ處置ヲ止ムルカ爲メニ、法官、陪審官又ハ裁判所ノ官吏ニ對シテ爲シタル暴行又ハ脅迫

(ホ) 同様ノ目的ヲ以テ法官、陪審官又ハ裁判所ノ官吏ニ對シテ、其廳ノ官吏ノ爲シタル濫用アヒニウ

(ヘ) 法官、陪審官又ハ裁判所ノ官吏ニ對シテ直接ニ贈リタル賄賂ノ罪

(ト) 原被ノ一方ノ利益ノ爲メニ、官吏ヨリ判事ニ爲シタ

ルコマンダシヨ
ル請囑

第八條 宣告及ヒ裁判所ノ命令ノ執行ニ對シテ、直接ニ犯シタル輕罪及ヒ重罪

即チ

(イ) 執務ノ法官又ハ宣告、命令ヲ執行スル爲メニ適法レガールニ從事處辨スル所ノ裁判所ノ官吏ニ對シテ或ハ其執行ニ實力ヲ以テ助勢スルトナ任セラレタル公力フォルスビエアリツクヲ有スル者ニ對シテ、暴行或ハ威力ヲ以テナセシ攻撃或ハ抗抵

(ロ) 執行ヲ妨クル爲メニ官吏ノ權威ノ濫用

(ハ) 同上ノ目的ヲ以テ裁判書類ノ盜奪

(ニ) 司法官ノ爲セシ封印ノ破却、宣告又ハ命令ヲ以テ取

押へタル物品ノ盜奪

(ホ) 命令又ハ宣告ニヨリテ囚禁シタル在檻人ノ逃走及
ヒ直接ニ其逃走ヲ便ナラシメタル處置

(ト) 同上ノ場合ニ於テ逃走シタル在檻人ノ隱蔽

第九條 職務ノ執行ニ於テ或ハ其職務ノ濫用ニ因テ犯シ
タリト公訴セラレ、キ、判事、陪審官及ヒ裁判所ノ官吏ニ適
用スヘキ重罪及ヒ輕罪

即チ

此場合ニ於テ適用スヘキ通例ノ重罪及ヒ輕罪ノ外、左ノ
特別ノ重罪及ヒ輕罪

(イ) 愛憎ニヨリテ與へタル不正ノ宣告

(ロ) 賄賂

(ハ) 賄賂ヲ知リテ告ケサル者

(ニ) 裁判ヲ爲スコトヲ肯セサル者

(ホ) 各箇人ニ對シテ爲シタル暴行

(ヘ) 適法ノ手續ヲナサ、ル住處侵入

(ト) 不正ノ徵收

(チ) 官金ノ盜奪

(リ) 不法ノ拘禁

(ヌ) 宣告及ヒ處分ノ嘘偽

第十條 以上記スル所ノ條款中ニ裁判所ノ官吏トアルハ、
書記宣誓シタル書記補、裁判所附屬ノ通辯及ヒ裁判所ヨリ
一時使吏ノナスヘキ告知又ハ處分ヲ命シタル者ヲ除キテ、
正員ノ使吏ヲ含ム

又法官トアルハ助役ヲモ含ム

第二章 外國人ノ告訴セラレタル違註罪、輕罪及ヒ重罪ノ裁判ニ關シ治罪法ノ別則

第一節 告訴

第十一條 領事團體ノ一人ヨリ、法官或ハ裁判所ノ官吏ニ對シテ罪トナルヘキ事實ヲ告訴シタルキハ、埃及政府ハ檢事ニ相當ノ命令ヲ與ヘ、檢事ハ其告訴ニヨリテ取調ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 輕罪及ヒ重罪ノ總テノ告訴ハ審問ノ後會議局ニ移スヘシ

第十三條 被告人國籍ノ領事ハ其被治者ニ對スル重輕罪ノ總テノ告訴ニ付キ即刻通知セララルヘシ

第二節 審問

第十四條 審問及辯論ニハ被告人ノ了解スル法律國語ヲ用フヘシ

第十五條 外國人ニ對スル審問及ヒ公判辯論ノキノ主任ハ、違註罪重輕罪ヲ問ハス、總テ外國法官タルヘシ

第十六條 重輕罪ノ被告人若シ辯護人ヲ有セサルキハ訊問ノ時ニ法廷ヨリ辯護人ヲ命スヘシ、否ラサレハ其訊問ハ無効トス

第十七條 埃及國ニ於テ囚獄ノ充分ナル建物アリト云フヲ證スルニ至ルマテハ、罪科アリトシテ拘留セラレタル被告人ハ、其國籍ノ領事ニ於テ、埃及政府ノ囚獄ニ拘禁スルヲ許可セサルニ於テハ、訊問ノ後即刻及ヒ最モ遅クトモ

拘留ノ後二十四時間内ニ、其國籍ノ領事ニ引渡スヘシ

第十八條 證人ニシテ、審問判事ニ對シテモ又ハ公判廷ニ於テモ、返答スルヲ拒ミタル者ハ、輕罪事件ニ於テハ一週間以上一ヶ月以内、重罪事件ニ於テハ三ヶ月以内ノ禁獄、或ハ兩様ノ場合ニ於テ、埃及貨幣百以上四千ピアストル以下ノ罰金ニ處セラレヘシ

此等ノ罰ハ、場合ニヨリテ、或ハ始審裁判所ニ於テ或ハ控訴院ニ於テ宣告スヘシ

第十九條 證人タルヲ拒絶スルヲ得ヘキ者ハ、被告人ノ尊族ノ親、卑族ノ親及ヒ兄弟、姉妹、或ハ同階級ノ姻族ノ親及ヒ假令離縁シタル者ニテモ、其配偶者トス、但檢事民事訴訟人及ヒ被告人ニ於テ拒絶セサルキハ、以上ノ人々ノ證言

ハ無効ニ歸スルヲナシ

第二十條 審問ヲナス間ニ住所^{ドミシール}搜索ヲ要スルヲアルキハ、被告人國籍ノ領事ニ告知スヘシ

領事ニ送リタル告知ノ調書ヲ製スヘシ

調書ノ寫ハ、請求アルキハ、領事館ニ送致スヘシ

第二十一條 領事ニ於テ自ラ臨場スルニアラサレハ住所ニ入ルヲ許可セサルニ於テハ、現行犯又ハ家宅内ヨリ救ヲ呼ビタルキノ外、夜中住所ニ入ルヲハ、領事又ハ其代人ノ臨場アルニアラサレハ爲スヲ得ス

第三節 管轄權ノ抵觸^{コンフリクト}ニ於テ管轄ヲ定ムル規則

第二十二條 會議局ノ集會三日前ニ審問書類ヲ書記局領事或ハ其代理人ニ迴送スヘシ

領事ニ於テ書類ノ寫ヲ請求シタルモ、其請求サレタル書類ヲ領事ニ送附スヘシ、否ラサレハ其書類無効ニ歸スヘシ

第二十三條 書類ノ廻送ヲ受ケタル被告人國籍ノ領事、其事件ハ同領事ノ管轄權ニ屬シ同領事ノ裁判廷ニ移スヘキモノナリト主張シ之ニ對シテ裁判所異議アラハ控訴院長ノ指名シタル二名ノ評定官或ハ判事及ヒ被告人國籍ノ領事ノ撰定シタル二名ノ領事ヲ以テ組織シタル會議ノ仲裁ニヨリテ其管轄ヲ定ムヘシ

第二十四條 若シ審問判事及ヒ領事ニ於テ同時ニ同事件ヲ審問シ各其管轄外ニアラスト論スルニ於テハ其一方ノ請求ニヨリテ異議ヲ定ムル爲メニ抵觸會議ヲ開ラケヘシ

抵觸論ハ普通ノ重罪又ハ輕罪ノ場合ニ於テ審問判事ヨリ

起スヲ得サルハ勿論ナリ、又其犯シタリト假定スル重罪又ハ輕罪ハ、新裁判所ニ附與シタル前數條ノ主旨ニ從テ求刑書ニ於テ其種類ヲ定ムヘシ、又若シ侮辱セラレタル法官或ハ裁判所ノ官吏其訴ヲ領事法廷ニナスニ於テハ領事法廷ハ其訴ヲ裁決スヘシ此場合ニ於テ抵觸ノ爭ヲ起スヘカラス

第二十五條 以上ノ式ヲ履ミタル後、其事件ヲ吟味スル法廷ハ、其事件ヲ裁決スヘシ其後ニ至リ管轄内ニアラスト宣言スルヲ得ス

第四節 重罪廷ニ於テノ辯論

第二十六條 重罪廷ニ於テ其辯論ヲ終リ又判事ノ裁判スヘキ條件ノ定リタルモ、ハ裁判長ハ其事件及ヒ被告人ニ利

ト不利トヲ問ハス重立タル證據ヲ略記スヘシ

第五節 刑ノ言渡ニ對スル控訴及ヒ上告

第二十七條 警察廷ノ裁判ニ對シテ許サレタル違註罪控訴ハ輕罪裁判所ニ其控訴ヲ爲スヘシ

第二十八條 治罪法ニ許シタル場合ニ於テ刑事宣告ノ裁判ニ對スル上告ハ民事々件ノ場合同様ニ組織シタル控訴院ニ其上告ヲ爲スヘシ
重罪裁判廷ニ列席シタル評定官ハ重罪廷ノ判決ニ對スル上告ヲ判決スルヲ得ス

第六節 陪審官名簿ノ編製及ヒ助役ノ撰舉

第二十九條 外國籍ノ陪審官ノ名簿ハ毎年領事團體ニ於テ編製スヘシ

依之各國領事ハ陪審官タルニ相當ノ者ト見込ミタル同國人ノ名簿ヲ領事筆頭ニ送附スヘシ陪審官タルヘキ者ハ年齡三十歳ニ達シ且ツ少クトモ一ヶ年前ヨリ埃及ニ住居ヲ定メタル者タルヘシ

第三十條 領事團體ニ於テ各名簿ニ因リテ删除ヲ加ヘ陪審官所要ノ總計二百五十名ヲ超過セサル數ニ於テ確定ノ名簿ヲ編製スヘシ

第三十一條 各國籍コトニ陪審官ノ數ハ三十名ヨリ多カラス十八名ヨリ少ナカラサルモノトス但其最少ノ數ニ達セシムルヲ得サル國ハ此限ニアラス

第三十二條 輕罪裁判所ノ助役アシスタントハ陪審官ノ名簿中ヨリ領事團體ニ於テ撰任スヘシ

第三十三條 各國籍ユトニ助役ノ數ハ六名ヨリ少ナカラ
ス十二名ヨリ多カラサルモノトス

第三十四條 若シ外國助役ノ人員ニ欠乏セシ府ニ於テ輕
罪ヲ裁判セサルヘカラサルキハ、控訴院ハ近隣ノ始審裁判
所ニ屬スル助役ヲシテ其欠乏ノ府ニ行キテ列席セシムヘ
シ

第三十五條 助役及ヒ陪審官若シ正當ノ事故ナクシテ出
席セサルキハ、其場合ニ從テ或ハ始審裁判所ニ於テ、或ハ控
訴院ニ於テ、埃及貨幣二百以上四千ピアストル以下ノ罰金
ニ處スヘシ

第七節 執行

第三十六條 囚獄ノ充分ナル場所ヲ埃及ニ於テ實際設置

セリト云フヲ證明スルニ至ルマテハ禁獄ノ刑ニ處セラ
レタル者ハ、若シ領事ヨリ請求スルキハ、領事館ノ獄舎ニ繫
禁スヘシ

第三十七條 領事ハ、其被治者ノ埃及政府ノ囚獄ニ於テ刑
ヲ受ケ居ル者アルキハ、其繫禁ノ場所ヲ實見シ及ヒ其情況
ヲ檢閲スルノ權アリ

第三十八條 死罪ノ刑ニ處セラレタル者アルキハ各國代
表人諸氏ハ其被治者ノ引渡ヲ請求スルノ權アリ
依之宣告ト宣告ノ執行トノ間ニ、各國代表人ヲシテ其意見
ヲ述ヘシムル爲メニ、充分ナル時期ヲ置クヘシ

第三篇

第一節 特別規則

第三十九條 新裁判所ハ必要ニ應シテ法官及ヒ裁判所ノ官吏ヲ、危険ナキ場合ニ於テ補助セシムル爲メニ、裁判所ニ於テ自ラ撰任シタル相當ノ吏員ヲ備置クヘシ

第二節 最終規則

第四十條 五ケ年ノ期限ノ間ハ、此規定ニ、一切ノ變更ヲ與フヘカラス

此期限ノ後、若シ其經驗ハ裁判改革ノ實地ノ要用ヲ充タスヲ能ハスンハ、舊態ニ復スルカ、又ハ埃及政府ト協議シテ他ノ方法ニ改正スルカ、其孰レニテモ各國ノ擇フ所ニ在ルヘシ

(三)宣言

裁判構成案第十一條ニ於テ讓與スルヲ許サ、ル重要ナ

ル主義ヲ再ヒ確認センカ爲メニ佛國政府ノ同條ヲ解釋シタル精確ノ意味ヲ論定スルノ目的ヲ以テ埃及駐在佛國外交官總領事代理領事ハケデーウ殿下ノ外務商務大臣ニユバル、パシヤ閣下ニ此書札ヲ呈スルノ榮ヲ有ス

一 行政事件ニ就キ新裁判所ノ管轄ニ關スル規則第十一條ハ異様ノ解釋ヲ與ヘ且ツ其意義ヲ確定スルニアラスンハ、ケデーウ殿下ト諸外國トノ間ニ異議ノ源タルヲ得ルニ因リ、佛國政府ハ其意見ニ於テ此條款ノ効果ハ斯クアラサルヘカラストスル所ノ範圍内ニ於テ辯明スルヲハ其義務ナリト信ス、同政府ノ意見ニテハ新裁判所ノ管轄權ハ埃及行政官ニ於テ賦課スヘキ租税ノ適法ナルヲ定ムヘキ權理ヲ委任スルヲマテニハ及ハサルモノトス、故ニ新法官

ハ外交上ノ手續ニヨリテ論定スヘキ税ニ關スル一切ノ處置及ヒ條約ノ文面ニ背キタルモノニテモ又ハ公法ノ主義ニ悖リテ埃及政府若クハ其代理人ヨリ我人民ノ被ムルモノニテモ總テ反對ナル處分ノ禁止或ハ回復ヲ得ル爲メニ外國政府又ハ其外交官及ヒ領事官ノ常ニ干與シ得ヘキ所爲ニ對シテ判決ヲ以テ其効力ヲ與フル權理ナシ、佛國政府ハ此件ニ關シテ嚴正ナル節制^{レセナツ}ヲナシ且ツ前陳ノ場合ニ於テ新裁判所ノ管轄權及ヒ管轄ヲ我國民ノ爲メニ承諾スルヲ拒絶スヘシ

二 佛國總領事、領事及ヒ佛國ノ法律ニヨリテ埃及ニ於テ裁判權ヲ與ヘラレタル者ハ、新裁判所構成ニヨリテ明カニ指定シタル場合ヲ除クノ外、從來ノ如ク其管轄權ヲ繼續ス

ヘシ

三 今日マテ埃及國ニ實行セル「カピチユラシヨシ」ハ、佛國政府ニ於テ試施ノ名ヲ以テ明カニ承諾シタル一部指定ノ例外及ヒ埃及國特種ノ習慣ニ因レルモノ、外、埃及政府ト外國トノ間ニ無限ノ法トシテ存在スヘシ

構成規則第二篇第四十條ノ豫定ニ從テ各國ニ於テ新制度ニ與ヘタル承認ヲ取消スヘキモノト決定シタルキハ、我邦ニ關シテハ、一時中止セラル、現制度ハ義務トシテ行ルヘキ性質ヲ復シ而シテ現行領事管轄ハ、爾後取極ムヘキ反對ナル約定ヲ除クノ外、其全部ヲ再生スヘシ

四 埃及政府ニ於テ言明シタル約定ヲ果タサ、リシ時ニテモ、或ハ經驗ノ結果ハ満足ヲ與ヘサリシ時ニテモ、又ハ國

民ノ安寧ノ爲メニ行フヘキ權理義務ヲ有スル領事ノ保護
無効無力ノモノトナル時ニテモ、佛國政府ハ、露國朝廷ノ爲
シタル如ク試施五ケ年ノ期限ノ終ルヲ待タス、直チニ改正
スルヲニテモ或ハ現今ノ狀態ニ復スルヲニテモ之ヲナス
ノ權ヲ有ス

版權登錄

明治廿二年十一月五日印刷
同 年十一月十日出版

定價金廿五錢

著 者

原

敬

麻布區市兵衛町二丁目廿六番地

發 行 者

原 亮 三



日本橋區本町三丁目十七番地

印 刷 者

關

幸 吉

同

版權所有

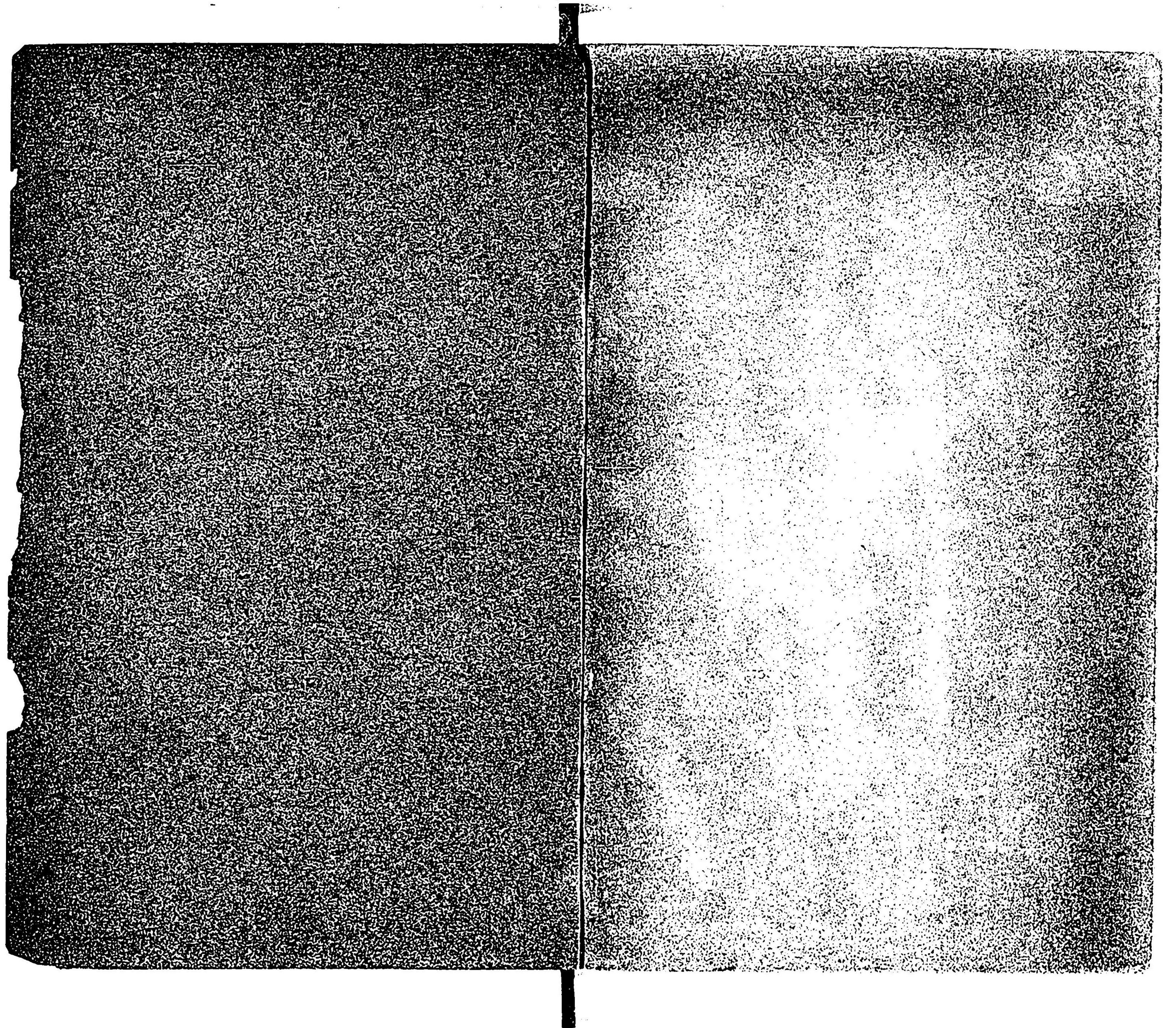
大 賣 捌

金 港 堂 本 店

大阪北久寶寺町四丁目十二番地

賣 捌

金 港 堂



18
195



18

195

036363-000-5

18-195

埃及混合裁判

原 敬/著

M22

BBR-0008

